愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月五日二十日發行

一部金參錢　一ケ月金六錢　半年分參拾六錢　全國無遞送料
廣告料一行六拾錢
本號全部[illegible]
發行所　東京麴町區（牛ケ淵公園）愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

愛國婦人會の目的は遺族及癈兵を救護するにあり

社說

同情（二）

旅は道連れ世は情、血液ありて身體に暖みあり、同情ありてぞ、社會も成り立つなれ。乞食が先祖代々の乞食にもあらず、今日榮耀に暮らせる者が、何時又人の世話とならずとも限らず、情は人の爲めならず、直接間接己れの爲めとなるものなり。たとへ同情を表して、賞狀は貰へずとも、同情を受けたる者の眞底よりの感謝は、賞狀にも何にも換ゆべからざるの報酬にあらずや。自身にはこればかりと思ふ同情も、受くる方には活きかへるほどの役に立つことあり。されば小なりとて、同情は止めにすべからず、其小積りてよく大をなすものなればなり。世に憐れなる者は頗る多し、讀者は彼の貧民窟なるものを窺はれたることありや、三疊一間、疊には相違なきも、磨れ剝げ、醬油にて煮占めたる如き古疊の三枚を、洒落にもあらず、風雅にもあらず、餘儀なき此世の住居として、數人の者が一所に轉がり、夏とて蚊帳なく、冬にも蒲團なく、病めりとて看護婦は愚か、藥の一服も呑ますこと能はず、助かる者をも見殺しとなし、人間の食物とはいへざる物を食ひ居る者あり、然らば彼等は怠惰にして此結果を招けるかといふに、必ずしも然らず、夫は外に出て丶車を引き、土など運びて働き、妻は家にありて子供の世話炊き洗濯—洗濯する着物あらば—は勿論、内職まてして一生懸命働き居るなり。之を內職は固よりせず、下女まて置いて暮らせる良家の妻に比ぶれば、孰れが多く働き、孰れが健げに働ける。されば良家に生れ、又は嫁きて、生活の餘裕ある者は、不運に生れたるがために、己れ以上に働きながら、遙に己れ以下の憐れなる生活をなせる者に對しては、及ぶだけの同情を表し、救助を爲すの心掛なかるべからず。次に己れの使ふ下女は如何に。凡そ特別の理由ある者の外、好んで下女に行く者はなかるべし。知らぬ他人の間に使はるゝ者の、如何に心元なく心配なるかを思ひ見よ。下女は決して機械にあらず、働かば疲れもし憊れもするなり、我が娘が下女に行かば如何と考へて、隨分勵はり使ふべし。食物とても餘り區別せず、一通りの物は食させ、貰ひ物、土產物なども、聊にても下女にも分ち與ふべし。下女の胃の腑とて、石をも消化す特別の仕掛には出來居らざるなり。使ふ言葉に同情の籠りて、穩かなるべきは無論の事なり。下女然り、況んや嫁に於てをや、嫁は學校上りにて、家事の經驗はなきもの、家風も分らず、料理も出來ず、役に立たぬは、寧ろ當り前なり。料理が出來ぬと苦情をいふ人が、自分は來た其日から甘く料理が出來たか考へて見るべし、家風がそう直ぐ分るものにあらず、何も修業が大切なり、香物一ッ切るにも手練は要るものなり、自分も始めは同じく出來ざりし事を忘れず、嫁の追々仕立てる氣にて、餘りやかましき事を言はず、同情を以て懇に諭し導くべし。我が着る着物は如何にして成りしかを考ふれば、工女の身をも思ふべし。工女が繰り出す血の淚が、絹絲綿絲となつて、其着物は出來たるにあらざるか、工女も同じ年頃の娘なり、人が着れば、己れも美服は着たかるべし、美服に誇る者は、自ら苦み、紡ぎ、織りながら、一生絹といふもの肌にせざる工女のことをも、忘るべからず。我が國の工女は、如何に働けるか、虐待、人權蹂躪等の事はなきか、同性の好み、己れの境遇の難有きにつけて、注意し、改良救濟すべきものあらば、個人として、又は團體の力を以て、婦人が率先して大に盡力せざるべからず。美服を着け、芝居を見、音樂會に行き、舞踏をなし、夏に手袋はめて交際といふものを爲て居れは、それで文明國婦人の役目は濟むと思ふは、大間違なり。指に箝めたるダイアモンドの光よりも、同情慈善の德に由りて、數多の人より拜まるゝ其後光こそは貴けれ。車夫、日傭、重きを擔ふて日に數里を驅け廻る、物賣り、子を負ふて車の後押をする女、土を運び、杭を打つ女、すべて勞働者と名けらるゝ者は、實に生活の健闘する者なり、勞働のチャンピオンなり、腕と足に由りて、最も正直に最も正當にパンを求むる者なり、敵陣に向て突貫し、敵艦に向て猛進するの動作が、壯烈偉大なりとすれば、生活の困難に向て、正直に健闘する彼の勞働者の動作も亦感歎に値するものたらずんはあらず。彼等が生活の强迫に由りて泥棒となり、罪惡を犯すべき幾多の誘引に遇ひ乍ら、毅然として能く之に反抗して、苦しき正直なる生活を續くるの勇氣と忍耐とは、人間の靈性を最も美事に發揮せるものにあらずして何ぞや。されば勞働者は同情を寄すべきものなり、決して下等社會など丶名けて見下すべきものにあらず、人間の上等下等は、富や着物にあらずして、能く働くか働かぬかにて區別すべきものなり。精神と身體の如何を問はず、勞働者の働きに及ばざる働き方をせる者は、宜しく彼等を勞働の手本となすべし。すべての人が勞働者ほどの必死懸命の勉强をなさば、社會は全體として今一層進み居るべき筈なり。勞働者は斯の如く働きて、しかも苦しき生活をなせる者、是に於てか同情起らざるを得ず。飴屋の爺、糊賣りの婆が、のらぬ腰をのして、日がな一日聲も絕へ〳〵賣り行くを見れば、何とか爲て遣りたく、己れが何もせずして、帶の簪のと云ふて暮すが、天恐しく思はるべし。一體我が國にては上流の婦人が一寸した事をすれば、直に感心する癖あり、而して下層の婦人は其幾十倍の骨折りを毎日爲し居るに拘はらず、感心とも氣の毒とも云ふものはなきなり。思ふに、こは上流の者は何も爲ぬものとの東洋流の思想、浸潤し居るより、少しの事をしても、大層に見へ、感心せらるゝなり。身分が人並みの事をするは當然にして、人の如何を問はず、別に感心すべきことにはあらず。我等は追々斯る思想が國民一般に普及することを望むものなり。表に太鼓をたゝきて、坊ちやまの御祝など唱へて入り來る越後獅子、は如何に見るゝか、見ん坊ちやまと獅子の子供と、ともに母の子にて、可愛さに相違はなかるべし、然るに一方は坊ちやまと立てられ、一方は名にのみ親の字を戴ける親方といふ殘酷なる者にいぢめられ、食ふものも碌に食はず、腹のへりたる體軀を逆立ちして、坊ちやまの御慰みに供せざるを得ず、如何なる月日の下に生れたればか、哀れなり。如何に貧なりとも、親を有する子は幸なり。其なつかしき親を亡くして、寄る邊なき孤兒といふもの丶、如何に憐なるかは、假りに己れを居らぬ者として、明日よりの子の有樣を想像せば、大凡は分るべし。孤兒院の如きは、婦人の手にて、全國に出來ねばならぬものなり。第一己れの子供をして、憐れなる子供に同情を表するやう、日頃仕付くべし。西洋にてはクリスマスの節には子供は種々の贈物を受け、菓子など貰ふの例にして、子供には年中第一の樂みなるが、貧家の子供はクリスマスとて、何も貰へざるより、小學校の生徒が會を開きて、唱歌體操などして、公衆に觀せ、寄附金を請ふて、着物、シャツ、靴、足袋、菓子などを求め、同校の貧しき生徒に分配するなどの事あり、誠にやさしき仕打といふべし。商家の小僧も粗食薄衣にて朝から晩まで年中働き通しの、年二度の宿下りを慰めんとて、新聞社などが面白き會を催すことは、我國にもたまにはあれど、ついぞ婦人が發起にて出來たるを聞かず。總て、是等の事は婦人が率先してするやうならざるべからず、然らざれば文明國の婦人とは申されぬなり。罪なくして苦しめる者を救ふは勿論の事なるが、一旦罪を犯して囚はれの身となりたる者も、また憐れむべき者なり。其罪を犯せる動機を糺さば、隨分可愛想なるもあり、されば其罪を懲らすと共に、また之を善導して、並みの人間に再生せしめざるべからず。女囚の生活が氣に掛りて、ならぬといふて强て監獄を訪れ、其取扱の改良を促がし、自ら女囚に本を敎へ、業を授けて、監獄改良の本尊となりし英國のエリサベス、フライの如き婦人も、あらば戰闘艦に劣らぬ我が國の寶なり、罪惡を犯さぬ前の感化事業、出獄者の引取り授產など、男子の方は暫く置き、婦人は婦人と子供だけの事をするとしても、仕事は幾らもあるなり。敎育は人を人たらしむる第一の要件なるに、其敎育を或事情の爲に子供の受くる能はずして、野獸の如くなつて仕舞ふは畢生の恨み、貧民の敎育は捨て置くべき者にあらずと奮發して、是に力を盡すは、婦人を見上げしむる仕事の一なり。我等は我が國婦人が大小各種の方面に大に其特性を發揮して、天晴れ戰後の大日本にふさはしき活動を爲されんことを希望して止まざるものなり。

電話番町五百二十番

◎本號には群馬縣支部職員の寫眞版附錄を添ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

人生の至樂

文學博士　前田慧雲

近來は女子の教育が盛んになつたと云ふけれども、まだ〱全體の女子には普及されて居らぬ、故に教育あり思慮ある女子は別として、女子の特性とも云ふべき猜疑心、虚榮心が失せず、亦た自省の力に乏しいものが多いのである。

自らを省て邪を正に、曲を直になほすると云ふことは、人として甚だ美しいことであるが、何うも女子にはこの心が乏しい、要之これ等も虚榮心の盛んな所から出て來るのであらうと思はれる、女子から虚榮心を取り去る、即ち全滅さすと云ふことは頗る難事であらうが、是れを矯めて薄くすると云ふことは、出來能はぬことではないと思ふ、其の虚榮心の中でも、ヤレ何某の夫人は如何なる服裝をしたり、ヤレくれがしの令嬢は如何なる髮飾りをしたりなど、云ひて、及びも附かぬ自身の分限をも省ず、是れに敗を取らぬやうにと競ふて美裝をしたがるもの、亦たこの服裝髮飾りの出來ざる限りは、所用ありても外出をせぬなど云ふものが、多くの家庭に於て見らるゝのは、實に痛惜の至りである、人格は決して美裝でない、堅實の心にあるのである、然るに夫れを忘れて、否な省ないで虚榮に趨りたがる、其の依つて起る所はと云ふと、夫れには猜疑の心が伴つて居て、人を疑ひ人を猜む念の盛んな結果であると思ふ、而してこの人を疑ひ人を猜むの念を起させたものは、誰であるかと云ふと、夫れは女子の特性もあるであらうが、大部分は男子が女子を壓し附けにして、所謂女童の知ることならず的に、何事でも女子に謀らず、女子を度外視して事を爲す所から、女子は勢ひ反抗心を起す、反抗心は起すけれども、是れに楯を衝いて行くことが出來ない、其處で妻君にして見れば、夫は何事でも自分に隱す、澤山に秘密を有つて居はせぬかと云ふ疑ひの心が起る、さうして他家の妻君を見ると、美裝をして居る、ア丶彼の方は幸福な人だなど丶羨しくもなり、また猜みたくもなる、妻君は家庭の事では最も權力がある人でなくてはならぬ、然るに其人の斯くの如きであるとすれば、其の子女に及す感化も亦た斯くの如してあるとせねばならぬ、斯くては萬刧を經ても猶且つ女子から虚榮、猜疑の心を取り去り、自省の力を養ふことは出來ぬ、而してこの事の行はれぬのは、單り女子の不幸たるのみならず、家庭、延いては國家の大不幸と云はねばならぬ。然らば如何にすれば是れを矯正することが出來るかと云ふに、何所の家庭にも能くあることであるが、一ヶ月の内に一度なり二度なり、赤の御飯を焚くとか、茶飯を拵らへると云つた場合に、其の機會を利用して、一家團欒の卓上、先づ主人からしてこの週間なり一ヶ月間に自分の爲したることに於て、心に恥ぢ濟まぬと思つたことがあれば、包まず懺悔して聞かすのである、すると妻君に於ても默つて口へは出すまいと思つて居た失策をも、良心に咎められて自白するやうになる、自白は聽て自らを省て悔ひ悛むるの基である、また主人は其の席上て、古人と今人とを問はず、賢母良妻の歷史的逸事を話して聞かすことも必要である、さうして是れを語るに何んと云ふ婦人は斯んな豪いことをした、斯んな貞女であつた、お前などゝは較べものにならぬ、と云ふやうな、反問詰責の語句があつてはならぬ、夫れては矢張り女を壓し附けにした仕方で、反抗心を起さすばかりて、自らを省るなど云ふ心は決して起らぬものである、故に當て附けがましきことを云はず、溫言以て席上を賑すやうにすれば、反省の必も起り、虚榮の心も去り、夫が打解けて、何事も隱し立てをせぬので自然猜疑の心も失せて行くやうになり、女子の人格を高からしむるのみか、家庭は圓滿に、和氣駘蕩、何時も春の如き光りに浴することが出來るのである。

故に、能ふべくんば、是れを一族一家庭に止めず、席上在るものは唯だ一椀の溢茶、一片の煎餠のみでもよい、所謂向ふ三軒兩隣りの妻君達が、各自の家に順番に集つて、宗教家なり、また教育家なり、夫れがなければ此方面に多少の智識ある人なりを招じて、一席の講話に耳を傾くるやうにしたい、講話と云つても、素より多數の會合でない、唯だ茶飲みの席であるから、演者と聽者の資格を區別するやうなことなく、至つて睦じき、家族的の會合にして、不知不識の間に信仰心を喚起さすやうにしたい、信仰心が堅固であれば、虚榮心、猜疑心などは起らぬ、起つても早く自省して改めるやうになる偉大の力がある。

猶ほ更に進むで能ふべくんば、愛國婦人會の如き、何拾萬と云ふ會員を有して居る團體が卒先して、全國各町村の會員を各町村每に每月一回一堂に會せしめて、然るべき人の講話を聞かすやうにしたならば、其の集りも容易であり、一般の女子が受くる利益と幸福は實に尠くないことであらうと思ふ、斯くて一郷相睦み、隣人相和し、家庭が圓滿に治つて行くとすれば、人生の至樂こゝに盡きたりと云ふも可なりてある。

女子と高等教育

評議員　廣岡淺子

女子に高等教育を施す可き必要あることは、私共既に十數年以前より主張して居る事柄でありまして、夫れ故に女子大學をも助成して建てさした程て、女子に高等教育を施す可きや否やの問題は、既に過去に屬して居ることかと思ひます、女子に高等教育の必要ある所以は、女子をして職業的位置を得せしめんが爲めてはありません、女子が職業を得る爲めばかりなれば、左程骨を折らなくてもよろしい、寧ろ高等の教育を施すの必要はないかと思ひます、夫れよりは良妻となり賢母となることが必要であると思ひます、殊に女子は男子の母とならねばなりません、善き男子を作るには高き教育を受けたる母がなくてはなりません、母は其の愛情と智識とに依つて、其の男の子を教育せねばなりません、己の產んだ子からして馬鹿にされるやうな母ては、其の子を立派なる人に仕立てることは出來ません、今日の青年は何うてありますか、父親の云ふことには多少耳を傾けますが、母親などの云ふことは殆ど聞入れないのが多いてはありませんか、中學時代の男の子の思想ては、己の母は皆自己より智識の足りない人のやうに考へて、母の訓言に從はず、母の威力も行はれぬと云ふ傾きがあります、斯くして果して完全なる第二の國民が作られるてありませうか、元來教育と申すことは、書物を多く讀んで廣く物事を知ると云ふだけが敎育の主旨てはありません、要は己の爲す可き仕事を適當に處理す可き能力を蓄ふることを云ふに過ぎぬのであります、假令ば政事家なれば、其の時代に起りし事件を最も適當に判斷し、是れを公平に處理する手腕を有するものが、爲政家として貴ばれるのであると同樣、女子も一家の妻となつては、妻としての適當なる職分を盡し、母となつては又母としての適當なる職分を盡してこそ、始めて良妻と云はれ賢母となる次第であつて、是等の職分を適當に盡さんには、豫ねてより蓄へたる能力が、無くては出來ません、此能力を養ふことが則ち教育であります、高等なる教育を受けたものは兎角く高ぶると云ふ嘲りがありますが、決してさうてありません、善く敎育された者ほど謙讓の德に富むて居るもので、熟實れる稻が自然と頭を垂るゝと同じてあります。

今日の女子教育はまだ〱高等なものにせなくてはなりませんが、之れには未だ多少の年月を要することと思ひます、女子高等教育論者の内には、帝國大學を開放して、女子にも講聽の權利を與へるやうとの說もあるやうに聞きますが、男女學生の取締さへ能く付けば、宜しいが、今日の處では男女交際などと云ふことは、まだ〱行ふてはならぬ時代と考へます、數百年來男子の爲めに壓付けられたる日本の女子の力は、まだ薄弱でありますから、男子と對等の步調を取ることが出來ないのみならず、日本の男子は紳士としての資格に缺けて居る處が多い、有名なる政事家ても、其の品行は實に修らず、人の師表たる可き人さへ、品行が不充分であるから、自然社會一般の品生が高くないのである、其の中に向つて可弱き女子を放り出すと云ふことは、中々危險の業でありまして、過度時代の今日の社會では、未だ行ふ可らざることと信じます、從つて男子の學生と相交つて、帝國大學の講義を聞くと云ふまで進むには、多くの年數と修養とを要することと思ひます。

酒匂土產

評議員　中山幸子

▲酒匂の別莊にてよめる

秋のよの月はのぼりて眞鶴の
　みなとさやかに見えにける哉

▲酒匂の別莊に松翁壽の生ひいづるによめる

わか宿の松のはやしに松翁壽
　生ひいつるこそ慶度かりけれ

▲秋しづかなる雨の日に

靜なる雨をめてつゝ見渡せば
　稻葉なひかす風たにもなし

▲夏の日さかりに富士の根に殘れる雪を見てよめる

神代より殘れる富士の白雪に
　見れは暑さも忘れつるかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭小說

武田櫻桃　三島霜川　江戸靜川　三氏合選

結婚論（三等）

花輪余志野

「姉さん鳥渡御覽なさい、こゝに大變な記事があッてよ。」と某私立學校の教員を奉職して居る秋子は、今朝出勤前の、少しの閑を偸むで袴を着けたまゝ、椽側で新聞を讀むで居たが、突然に今針仕事にかゝッて居る嫂の春子に斯う聲をかけたのである。

「大變なことッて何？　秋さんのは何時でも前詞が大きいから……。」と云ッて、春子は仕事の手も止めず、振向いて見やうともせぬ。

「アラ彼麼ことを、姉さんはお口が惡いわ、是れこそ大變なこと、私達の人格に關はることだわ。」

「へーエ、女の先生は廢止になるとでも云ふんですか、ホヽヽヽ。」

「厭だ、姉さんは茶かしてばかり居らッしやるのだもの。」

「夫れじや、その大變なことッてのは何んなことか聞かして下さい。」

「夫れは、斯う云ふ題なんですよ。」

「何う云ふ。」

「迷へる女子に與ふる文。」

「本當に大變なことらしいわね。」

「そら御覽なさい、大變なことでせう、是れが私の獨身主義を攻撃した結婚論ですよ、マア憎らしい。」

「秋さんを目標にして書いたのぢやありますまい、一般の獨身主義者を指して書いたのぢやありませんか。」

「それはさうでせうけれど、私は獨身主義ですから。」

「マア本文を讀むで聞かせて下さいな、本文を見ないことには何方らに理があるか判かりませんわ。」

「ぢや讀みますよ。」と云ッて一段半ばかり、秋子は息も吐かずに讀むで了ッて

「穏には書いてあるけれど、この末文に

獨身の女は園なき花園、花園に園なければ、腕白なる童の手足にて見る影もなく荒され申し候、美しき女性の世に立つは、花園を惡童の前に公開するに似通ひ申し候、何れ愛くべき損害は測られぬものに候、教育に從事する女性などにこの弊多きは考ふべきことに御座候、

とあるは、姉さんは何んとお思ひなさるか知らないけど、私は口惜しく思ひますわ、園なき園の花と云ふ名詞は、非常に輕侮の眼を以て女子を見たものとしか思はれませんわ。」

「さうね、けれども無理な言葉ではないと思ッてよ、隨分相當の學問もあつて子弟を預ッて居る婦人に、言行の一致しない方もあるやうだからね。」

「さう姉さんに云はれると、實際そんなのが時々あるものですから、私達までが見下げられて、其の結果斯んなことを云はれる、何故當今の女子には男子に凌駕されない、モ少し氣慨のあるものがないのでせう、財産も何にもなくて獨立しやうとするには、勢ひ園のない園にも立たなければなりませんが、同じ園に立つにも、今云ふ惡童の手足に荒らされる花とはならいで、束縛を避けて翼と云ふ自力で以て、自然の花の咲き匂ふ廣い野を飛び、舞ふて居る胡蝶となれば、猥りに惡童の捕るを許さず、何んなに樂しいことか知れない、獨身主義の人は皆んな胡蝶の心になれば宜いのですがねえ。」

「オホヽヽ、秋さんは氣樂なことばッかり、什麼に行けば樂みでもあらうし、斯んな結構なことはないでせうけれど。」

「では獨身主義には反對なんですか。」

「だから秋さんは氣樂だと云ふんですよ、姉さんなんかモウ二人の子持ちじやありませんか。」

是れには秋子も可笑かッたと見へて、クッ／＼と忍び笑ひ、フイと立ッて書齋に入ッたが、軈て筆を奔らせて「某氏の迷へる女子に與ふる書を見て」と前書して

獨身の女子を園なき花園とは、實になさけなき名詞を附せられしもの哉、而も是れを不條理不適當の言として排斥し得ざる女子の多き口惜しき限りにこそ、某氏の云はるゝ如く、現今獨身生活をなせる女子の思想比較的薄弱にして、馥郁たる花を惡童の折るにまかせて恨みとせざる、花そのものは無感覺無精神の植物とするも、是れを培ひ養ひたる園の主の心や如何ならん、茲に於て我が望むところは、宜しく廣野に遊ぶ胡蝶となりて飛揚し、天然の花に戯れ花に宿りて、彼の惡童に汚さるゝ勿れと云ふにあり、是れ實に犯すべからざる自重、園なき園の花の及ぶ所にあらざるなり、獨ほこの精神、乃ち胡蝶の自重は單り獨身主義をとれる者のみの範圍に止まらず、一般未婚の女子に望む所なり。

と書き出だして野紙に五枚ばかり、書き了ッて得意氣に其を讀み下し

「匿名だから大丈夫だわ。」

と獨り言ちながら封をなし、鳥渡時計を眺めて

「おやモウ十五分しかない。」

慌てゝ、其所ら取片附けもせず、急いで封書懷中に門外へ出て、其處なるポストに夫れを投げ込むや、傍目も觸らず、敎の場にと急ぐのであッた。

ア、未婚の人、獨身主義の秋子、あはれ秋の胡蝶の脆き運命を知らずや、花の香失せて夢醒むるの時や如何に。（をはり）

東西名婦傳

ゲーテの母

文學士　原　弘毅

ヨハン、カフパーの妻カタリナ、エリザベートは、亦詩聖ゲーテ氏の母たるに耻ぢざりき、ゲーテ氏其の自叙傳中に記して曰く「予は嚴君よりして容儀帶佩と、眞摯なる處世の心術とを傳へ、更に阿母よりは快濶なる性情と、小說稗史を物する嗜好とを承けたり」と。

エリザベートの夫カスパーは、其の妻に長ずること二十一歲にして、才を恃み己を信じ、嚴正苛酷なりきと評せらる、若うして法律を學び、異常の學識を習得するや、非法の歴敍を求めて得ず、艴然として大に怒り、爾來再び官途に就かず快々として邸内に閑居せり、此の如きの時に當りて、此の如きの人に見えたる、我がカタリナ、エリザベートは、芳紀僅に十七歲なりき、而も能く其の夫に事へて、琴瑟和合の至樂をうけ、共棲すること三十四年に及ぶ、結婚後一年にして長男ボルフガング（詩聖の名）を擧げ、二年にして長女コルネリアを設く、之より夫妻は、專ら兒女の養育に任じぬ、其の高足の麒麟兒をして、苛酷なる嚴文の鞭撻を厭ひ、自暴して塀外に逸出するに至らしめざりしものは、竊に緩急を按配する、慈母の在りしによらずんば非ず。

七年戰爭の酣なるに當り、佛軍はフランクフルト市中に進入し、トランク伯爵はゲーテ家に舍營れり、當時市民は中立を宣言せるも、カスパーは元フリードリッヒ大王の崇拜者なるが故に、トランク等を見ること蛇蝎の如し、乃ち二人の衝突を未萠未發に防がんと欲し、之が和解に腐心せる、夫人の心緒は察するに餘あり、之より先伊語を習得せるエリザベートは、今亦新に佛語の練習を始めて、トランク大尉との應對を圓滑ならしめんと欲す、中年を超えたる女主人が、己の爲めにとれる此の勞苦を見て、伯爵は大に夫人を德とせりき、彼のカスパーが一端監禁せられて、而も軍法會議に附せらるゝに至らず、直ちに放免せられたるものは、夫人の力多きにをるなり。

其の兒の雷名轟くに及び、エリザベートは廣く上下の人々より、刀自の尊稱を以て迎へられ、詩聖の母たるに背かざるを示しぬ、其の自讃の言葉に曰く『神明の加護のあればこそ、身分年齡男女を分たず、人皆妾と交るを樂むなれ、妾は他を愛し他も亦之を感ず、嘗て嘘僞りを構へたることなきは、世人の快とする所なり、他人を規諷したることもなく、一向其の長所を見るに努めぬ、其の短所の如きに至りては、圭角を磨滅するに巧みなる、神明に任せ參らするを可とす、妾は此の如くにして、安靜幸福滿足するを得たり』（シュタイン夫人への書狀）と、以て平生の本領を見るべし。

一八〇八年九月十三日、新涼室に入ッて天下秋を覺ゆるの候、此の交際に巧みに友誼に厚く、瓢逸詼諧なりし老夫人は、萬人悲痛の嘆聲裡に、兼ねて先立たる愛人愛孃等の跡を追ひつゝ、殆んど眠るが如くにして、天國再生の素懐を遂げぬ、時に齡七十有七なり、噫。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

衛生小説 長命の秘訣

糸左近

君子といふは某子爵の夫人で、何の不自由も無い身、或る日の夕方、縁側に涼んでゐると「ゴーン」、遠寺の鐘は古い小説家の口吻では無いが、諸行無常を告ぐるかの如く餘音を響かせて聞ゆる。

「嗚呼私も今年は四十九、來年が定命、言はゞ棺桶へ半分入つてる身體、實に人生は朝露のやうなものだなア」斯う考へて見れば、何だか心細くなつて、鈍い頭痛さへ加はつて來る、散歩でもしようか」と、從者をも伴れず、ブラリ／＼足に任せてゐると、何時の間にか或る寺の境内に來た、何寺かと問へば、長命庵といふ尼寺とのこと、長命庵、名だけ聞いても何となく懐かしい、で早速庵主に面會を求め、奥に通れば、庵主は莞爾として、

「何用あつて來給うたか」

「ハイ私は今年四十九、最早餘年も無い身で御座いますれば、御佛の教でも聽かせて頂きたいものだと思ひまして……」

「教を聽かせてくれ、其の御心は殊勝なれど、餘年も無いなどゝは、ハヽヽ、、何から割出した勘定で御座る、拙尼は今年百二十歳でありますが、決して餘年の無いなどゝは思ひませぬ、まだ／＼生き長らへて少しでも知つてる事を世の人に知らせたいものだと、日夜に心を働かせてゐます、貴女は長生したくありませぬか、五十で命を思ひ切りますか、五十で思ひ切るやうな人は言はゞ自ら命を棄るのです、自ら棄るやうな人には、佛は命を與へませぬ、一日でも世の爲に盡したいと思ふ人には、長命をさせて下さいます、彼の官途に就いてる人が年老いたからとて、辭職の上風月を友と致しますれば、俄かに老耄れて了ひますが、職に在つて何處までも精神の活動を止めぬ人は、八十九十までも、長らへて而も老耄しませぬ、ですから健康長命の源は唯精神に在るのです、今一例を擧れば重病の人が遠方なる親戚或は朋友に逢ひたいと待つてる間は生きてるけれど、逢つて遺言も濟み、既に死を覺悟する時はピシャリと燈火の消ゆるが如くに眠ることは能く在る例ではありませぬか、又醫者からも聞いてゐます、病人が自ら治らぬと信じてるのは、治る可き病も、仲々容易に治されぬが、治ると信じてる病人は意外に善い成績のあるものだと、されば貴女も心細い氣を取り直して「愛國婦人會」の爲にでも大いに活動せられよ、精神の活動さへ止まねば八十九十は愚か、百歳以上までも必ず健康に長命することが出來ます、故に貴女が其氣になつて冗言にも年老つたなどゝ言はぬことを誓はれぬ以上は、拙尼は決して御佛の教を話しませぬ、先づ是から決めてかゝりませう。」

「成程さうで御座いますね、心得違をして居りました」

と、君子は大いに感じ、庵主の霜白い長き眉の如何にも神々しきを拜んでると、

「奥様「愛國婦人」が參りました」

「エーッ」

醒ればこは假寢の夢、けれど君子夫人は之を夢とは爲ずに、正しく「自然」が妾に教へ玉うたのであると、之より生れ變つた樣に精神を快活にして世の爲に盡し、明治は九十年の春、萬朶の櫻咲き香ふ上野の公園に、愛國婦人總會の開かれたる席上、百歳の身を以て、滔々「長命の秘訣」を辯じられたとは目出度／＼。

グニャ／＼とピン／＼

久津見蕨村

▲「姉ちやんお人形で遊びませう」とは女の兒が姉さんに申す言ばかりではありません。男の兒でも外に男の兄弟がなくて姉さんばかりだと能く申す言です、誠に優しい可愛らしい言葉と思はれます。

▲「兄ちやんや、あたし兵隊さんよ」これも男の兒が其兄に言ふ言ばかりではない女の兒でも外に女の姉妹がなくて兄を持つてをると兎もすれば云ひ出すとです。之も勇ましい可愛らしい言葉です。

▲けれども退いて考へてごらんなさい。之れでは男女反對です。男が女のやうで女が男のやうです。勿論小童幼女の中は女も男も無區別なことがありますから、之れでも構はん譯です。併し男の兒は飽く迄も男らしく、女の兒は亦どこまでも女らしいのが善いではありませんか。イヤ必ずさうありたいものです。

▲所が人は生れ落ちるとから境遇に支配されますので、姉さんばかりしかない男の兒、兄さんばかりの女の兒は得て仕て男女反對になりたがります。「お前は男の兒の性癖に女のやうだネ」とか「女の兒でありながら荒々しい男の眞似をしてはいけません」とかのお小言が出るやうになりますのは多く之れが爲です。

▲ですからさう云ふお小言を發言まへにこの所の原因を考へて頂きたい。そして男らしい男の兒、女らしい女の兒がお望みならば姉さんや兄さんの感化に就て何にとか工夫をさらなければならんではありません乎。

▲そして三つ兒の魂は百までとも申します。幼時に受けた感化は能く長く續きまして、成長の後も往々出ますものですから、誠に男の中の男にしたいとか、優しい女にしたいとか思召したら――實際にもさう思召すに違ひないとすれば、小童幼女の時から例令兄弟姉妹でも異性の感化と云ふことに就て、十二分の注意をなさらねばなりますまい。

▲成るべくは、男の兒は男の兒と遊ばせ、女の兒は女の兒ばかりと遊ばせたい。就中男の兒を姉さんばかりと遊ばせて置くのは餘り宜しくないと思ひます。成長の後男のくせにグニャ／＼して女のやうだつたり、女でありながらピンピンして男見たやうだッたりするのは、詰り斯う云ふ所からも來るやうに想はれます。

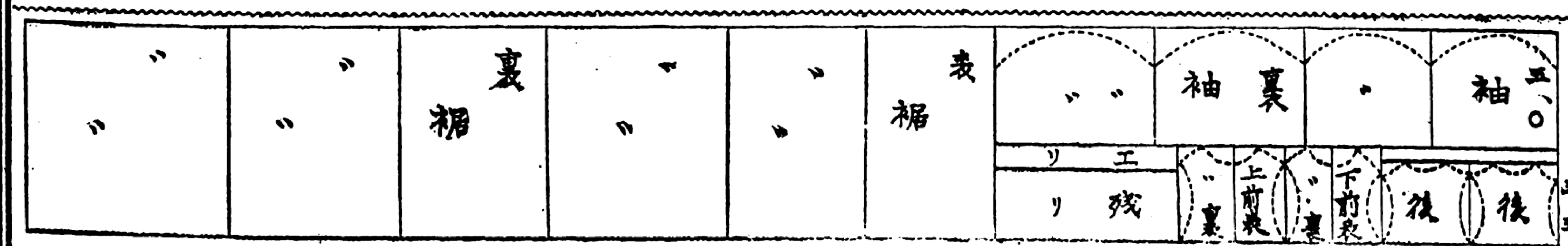
夏の簡易なる小兒寢衣

ドクトル 川瀬元九郎氏 水谷近氏 合選

▲三等　東京　林浦子

私は撰て和洋折衷にして、木綿巾の有合せにて出來る、簡易なる衛生的小兒寢衣を案出しました。

▲袖丈 四寸五分▲袖山 三寸五分▲袖付 三寸五分▲衿廻 聞意▲衿止ホーク止▲衿下四ヶ所ボタン止▲八ツ口 日本服の如く一寸五分明き



切地 は木綿幅全部袷になし、一丈五尺要ります。

縫方 は日本服の袷の如き筒袖に縫ひ、胸當の肩の所を四枚合せて縫目を前に返し、前明きの立の所を縫ひ置き、さうして裾六布をとりて四ツ縫ひに（表裏六布なれば出來上り三布となる）なし、下部の裾も縫ひ、尚ほ上部に襞を取り、前明きの所はボタンを付ける爲め少し縫ひ込みを深くし、斯くして前記胸當の幅に相應するやうに襞を縮めて胸當に縫付け、次に袖裏にて綴け、八ツ口を明け、衿は殘り布にて細く縁を附け、衿の上部はホーク附けにし、其の下の四ケ所はボタンで止めるのであります。

實驗 着せるには日本の服の如く八ツ口が明いて居りますので、手を通すにも別段の無理がありませず、また襁褓を取替へるにも至極樂であります。

下着 としては、腹掛をあて、普通の襦袢の上に是れを着せるのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎評議員會　九月中の評議員會例會日取りは左の如し

九月廿六日（第四水曜日午後二時）

◎總裁殿下支部總會御臺臨　兼て報ぜし如く山形秋田兩支部總會へ御臺臨の御豫定の處山形支部内に於て惡疫流行の兆ある故同支部總會は延期となりしに付き秋田支部のみに御臺臨あらせらるべく隨行員は評議員伯爵夫人酒井夏子氏評議員跡見花蹊氏事務長補助高松鐵太郎氏及愛國婦人記者手島益雄氏にして去る十七日御出發相成りたり當日上野驛に御見送り申上げたる諸氏は左の如し

▲會長　岩倉久子

▲理事　近衛貞子　鍋島榮子、谷玖滿子、島津田鶴子(代人)

▲評議員　佐竹祚子、戸田時子、佐竹琛子(代人)　千家俊子、濱尾作子、佐藤猶子、佐藤靜子、有島幸子、中山幸子、室田せい子、古市から子、原禮子(代人)

▲會計監督　佐藤正

▲東京支部幹事　寺井とよ子、飯塚里子、秋間爲子、前田とみ子、關萬代子、内海きく子、三橋菊尾

尚ほ御發着割は左の如し

△九月十七日　上野御發　午前八時五十五分
　　　　　　　福島御着　午後五時三十五分
△九月十八日　福島御發　午前六時二十五分
　　　　　　　秋田御着　午後七時八分
△九月十九日　秋田總會
△九月二十日　秋田御發　午前六時十五分
　　　　　　　福島御着　午後七時四十五分
△九月二十一日　福島御滯在
△九月二十二日　福島御滯在
△九月二十三日　福島御發　午前九時十四分
　　　　　　　　上野御着　午後六時五十分

●北海道支部へ出張　九月廿三日北海道支部總會開催につき本部よりは評議員子爵夫人伊東美津子評議員高木鏃子評議員柳谷千代子事務員小池維一郎の諸氏九月十九日上野發の汽車にて出張し廿七日歸京の豫定なり

◎寄附金披露　其の後金拾圓以上の寄附金者左の如し

一金百五拾圓　清國牛莊　韶庭
一金八十六圓　臺南英國教會代表者　バークレー夫人
一金四十五圓　東京豐多摩郡　浮田美枝子
一金貳拾五圓　石川縣　富樫一華
一金貳拾圓　京都府　上田絹子

以上の内浮田美枝子の分は騎兵少佐浮田家雄氏の亡妹愛子生前の遺言に依りて香奠の内を寄附せられたるものなり

各地支部狀況

▲秋田支部　第一回總會を九月十九日開催左の順序により執行せり

一第一鈴　參列者入場整列
一第二鈴　君ケ代吹奏（一同最敬禮）
一總裁殿下御臨場
一支部長開會の辭
一三十七八年戰役に關し本會へ賜はりたる御令旨捧讀　支部長（一同最敬禮）
一奏樂
一支部長職員名簿及會員表捧呈
一總裁殿下御諭旨（一同最敬禮）
一支部長奉答
一支部副長會務並に會計報告
一會長祝詞
一支部顧問來賓會員總代祝詞
一總裁殿下有功章御親授（一二等有功章 三等有功章總代）
一總裁殿下癈兵總代遺族惣代に特別賜金授與
一支部長閉會の辭
一君ケ代吹奏（一同最敬禮）
一總裁殿下御退場
一第三鈴　參列者退場

尚同支部總會の事務章程の要領を揭ぐれば左の如し

一事務所を縣廳内に置き支部長顧問之を統理す支部長顧問事故あるときは先任副長相談役に於て其事務を代理す
一主事は各係を監督し諸般の事務を處理せしむ
一總會に左の係を置き其事務を分掌せしむ
　式場係　御旅館係　旅宿係　庶務係　會計係　接待係　衞生係　餘興係
一各係に係長を置き其の事務を管掌せしむ
　但各係長事故あるときは其係員中より事務代理者の指命を請ひ處理すべし
一式場係は總會に關する式典一切の事務に從事す
　式場は公會堂の南方空地を以て之に充て建設する事
　式場幔門等の裝飾に關する事
　（來賓、佩有功章者、遺族、癈兵等）及會員席を設くる事
　受付及徽章、印刷物（式の順序書）、紀念品、菓子折詰等の交付所を設くる事
　救護掛（赤十字社救護員）詰所を設くる事
　式場内外適宜の場所に便所を設くる事
一御旅館係及旅館係は總裁殿下御一行御宿泊の設備及參會者の宿割に從事す
　御旅館は佐竹侯爵別莊を以て之に充つ
　御旅館の裝飾、御賄、給仕及御旅館内外の警衞に關する事
　來賓（佩有功章者、遺族、癈兵、金鵄勳章受領者其他）及會員の宿割に關する事
一庶務係は總會に關する庶務に從事す
　文書の收受及發送に關する事
　通信往來に關する事
　來賓（佩有功章者、遺族、癈兵及寄附金五圓以上の者其他）へ案内狀を發する事
　宴會參列者へ案内狀を發する事
　總會當日受付に關する事
　紀念品及其他交付品に關する事
　各種徽章及調製の事
　入場券其他印刷物（參列者心得書）に關する事
　獻上品に關する事
　廣告に關する事
　人力車の手配其他一般運輸に關する事
　人夫小使に關する事
　宴會の設備に關する事
　各係に於て要する物品調達に關する事
　前項の外總會に關し他係の主管に屬せざる事項
一會計係は總會に關する出納並用度事務に從事す
　諸般の費用支出に關する事
　寄附金品其他收入に關する事
　物品の用度に關する事
　收支の整理並報告に關する事
　前項の外總會に伴ふ諸般の設備に關する事項
一接待係は貴賓の送迎及參會者の接待に從事す
　總裁殿下御一行並に貴賓の送迎に關する事
　學校生徒各團體員其他一般奉送迎に關する事
　式場内參會者並來賓接待に關する事
　宴會場の接待に關する事
一衞生係は總會に付衞生施設に從事す
　沿道の掃除及清潔法執行の事
　御旅館及式場附近清潔法執行の事
　式場内衞生に關する事
　救護掛（赤十字社救護員）に關する事
　前項の外防疫衞生に關する事
一餘興係は總會當日左の事項に從事す
　煙火に關する事
　竿燈に關する事
　式場内外の取締に關する事
一各係員は各其主管事項に付互に其順序方法を協議し經伺の上執行すべし

▲北海道支部　第一回總會は九月二十三日午後零時三十分より札幌農學校附屬博物館構内に於て開會し戰死者遺族及癈兵に對し總裁殿下の御染筆並に御下賜金下賜の旨を千百四十七名に向けて通知し同時に左の注意書を發布せり

一參列者は一家族一人にて必ず本人に限る事
一參列の節は優待員章を佩用し招待狀を必ず持參の上會場入口受付係へ渡すべき事
一當日總裁宮殿下の御染筆御下賜金は代理參列者にはこれなき事
一參列通知の方は汽船汽車割引劵を送る
一參列者は靴又は草履の用意を爲す事

▲京都支部　本月七日評議員會を開き木下常子外五名出席の上左の諸項を協議したり

(一)癈兵慰藉及び授産に關する件
(二)癈兵黑田亦吉氏外二名に對し特別救護を行ふ事
(三)幹事辭任の件（可決）
(四)役員囑託の件（可決）
(五)癈兵現況調査に關する件

愛國婦人會々員數並に女子人口比較表（明治三十九年七月末日調）

支部名	特別會員	通常會員	合計	三十六年末女子人口	女子人口百人に付會員比例	賛助員
石川	一、九七八	一九、五八三	二一、五六一	三八五、四七八	五、五九	七九四
山口	八三五	二六、二七九	二七、一一四	五〇六、九二〇	五、三五	一、〇七五
山形	八三三	一七、三〇八	一八、一四一	四三九、六一八	四、一三	一四三
岡山	一、〇四四	一九、七一四	二〇、七五八	五七七、二七二	三、六〇	三六三
福岡	二、四九三	二二、二六八	二四、七六一	七七二、七四三	三、二〇	九五四
熊本	二、八二一	一六、六五五	一九、四七六	六一〇、四一一	三、一九	二、三〇二
京都	二、一二六	一三、四九九	一五、六二五	五二一、三九五	三、〇〇	三六九
富山	八二四	一〇、六七四	一一、四九八	三八四、九八二	二、九九	六四三
愛知	一、二〇三	二四、四一八	二五、六二一	八六八、五三八	二、九五	六三一
群馬	一、三七六	一一、七四二	一三、一一八	四五四、一七一	二、八九	二一九
香川	七九一	九、二三八	一〇、〇二九	三四七、八九〇	二、八八	三五〇
兵庫	二、〇六一	二三、二九六	二五、三五七	八九三、七三四	二、八四	四九六
北海道及函館	二、七七七	一一、五三二	一四、三〇九	五〇七、六三八	二、八二	一、〇六〇
長崎	三、一〇四	一〇、〇五六	一三、一六〇	四八九、三五〇	二、六九	五二
宮城	一、四三四	一〇、二七六	一一、七一〇	四四五、〇四七	二、六四	七〇七
愛媛	三六六	一二、二二九	一二、五九五	五一一、三九六	二、四六	二八四
青森	一、〇五一	六、七一四	七、七六五	三二二、二一一	二、四一	二六八
大分	七九九	九、五〇一	一〇、三〇〇	四三〇、〇二五	二、四〇	四一七
神奈川	一、三七〇	一〇、三九九	一一、七六九	四九九、六二三	二、三六	二六二
島根	二九九	八、〇四〇	八、三三九	三六二、六三五	二、三〇	四〇四
佐賀	八三二	六、四六一	七、二九三	三二七、六七八	二、二二	一九七
奈良	二九一	五、六九〇	五、九八一	二七八、一九一	二、一五	三二一
三重	四〇三	一〇、六七六	一一、〇七九	五二二、〇四三	二、一二	三四五
高知	二五三	六、四二三	六、六七六	三一八、二四五	二、一〇	六一三
福井	七一五	五、九九四	六、七〇九	三二〇、一五四	二、一〇	九八八
岩手	六六二	六、八八九	七、五五一	三六九、二七八	二、〇四	一九七
宮崎	二四二	四、七五二	四、九九四	二四七、二五二	二、〇二	四四八
滋賀	四八二	六、五五〇	七、〇三二	三六四、六八八	一、九三	二、七五七
福島	一、一五九	九、五三六	一〇、六九五	五八二、一五六	一、八四	五四五
東京	七、二九七	一一、九六四	一九、二六一	一、一五七、五一四	一、六五	五〇六
德島	三一四	五、四二九	五、七四三	三五二、六〇八	一、六三	八一
大阪	二、九九五	一〇、九二七	一三、九二二	八六三、四〇五	一、六一	一、〇二六
廣島	一、三九一	一〇、〇六三	一一、四五四	七四六、六五五	一、五三	七〇六
千葉	九七五	八、六三一	九、六〇六	六五六、七八二	一、四六	三三一
山梨	三二五	三、一二四	三、四四九	二七二、一四八	一、二七	一三九
茨城	五二八	六、九五五	七、四八三	六〇〇、四一三	一、二五	五六
鹿兒島	一、〇三七	五、五二三	六、五六〇	五九四、九八五	一、一〇	三三四
秋田	五〇一	三、七一一	四、二一二	四〇三、九四六	一、〇四	一、二七四
和歌山	二六一	三、二五七	三、五一八	三五〇、〇六九	一、〇〇	三七一
埼玉	三五五	五、八一一	六、一六六	六二七、五五六	〇、九八	三九三
鳥取	一六一	一、八七七	二、〇三八	二一七、五四一	〇、九四	三六九
岐阜	六四九	三、七八一	四、四三〇	五〇二、六五八	〇、八八	四二四
靜岡	三九二	四、四二五	四、八一七	六四〇、八四八	〇、七五	六八
沖繩	三二一	一、三一九	一、六四〇	二三九、五二七	〇、六九	九三
長野	四九八	四、一三八	四、六三六	六七四、五一五	〇、六九	五六一
新潟	七二三	四、七九一	五、五一四	八九九、〇二一	〇、六一	八二一
栃木	二八四	一、八一九	二、一〇三	四五〇、一二六	〇、四七	一六三
臺灣	一、〇六九	三、二四四	四、三一三	一、四〇二、七七一	〇、三一	八、一一三
海外	七三二	二、一二二	二、八五四			二、六七六
合計	五五、四三二	四五九、三〇三	五一四、七三五	二五、三一三、〇四〇	二、〇三	三六、七〇九

備考　支部の配列は會員比例數の多きものより順次配列す
北海道及函館の兩支部會員は合算して揭載せり而して函館支部會員は特別會員四百八十八人通常會員千五百九十四人にして他は北海道支部會員數なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

人生の至樂

文學博士　前田慧雲

近來は女子の教育が盛んになつたと云ふけれども、まだ〳〵全體の女子には普及されて居らぬ、故に教育あり思慮ある女子は別として、女子の特性とも云ふべき猜疑心、虚榮心が失せず、亦た自省の力に乏しいものが多いのである。

自らを省て邪を正に、曲を直になほすると云ふことは、人として甚だ美しいことであるが、何うも女子にはこの心が乏しい、要之これ等も虚榮心の盛んな所から出て來るのであらうと思はれる、女子から虚榮心を取り去る、即ち全滅さすと云ふことは頗る難事であらうが、是れを矯めて薄くすると云ふことは、出來能はぬことではないと思ふ、其の虚榮心の中でも、ヤレ何某の夫人は如何なる服裝をしたり、ヤレくれがしの令孃は如何なる髮飾りをしたりなど〻云ひて、及びも附かぬ自身の分限をも省ず、是れに倣を取らぬやうにと競ふて美裝をしたがるもの、亦たこの服裝髮飾りの出來ざる限りは、所用ありても外出をせぬなど云ふものが、多くの家庭に於て見らる〻のは、實に痛惜の至りである、人格は決して美裝でない、堅實の心にあるのである、然るに夫れを忘れて、否な省ないで虚榮に趨りたがる、其の依つて起る所はと云ふと、夫れには猜疑の心が伴つて居て、人を疑ひ人を猜む念の盛んな結果であると思ふ、而してこの人を疑ひ人を猜むの念を起させたものは、誰であるかと云ふと、夫れは女子の特性もあるであらうが、大部分は男子が女子を壓し附けにして、所謂女童の知ることならず的に、何事でも女子に謀らず、女子を度外視して事を爲す所から、女子は勢ひ反抗心を起す、反抗心は起すけれども、是れに楯を衝いて行くことが出來ない、其處で妻君にして見れば、夫は何事でも自分に隱す、澤山に秘密を有つて居はせぬかと云ふ疑ひの心が起る、さうして他家の妻君を見ると、美裝をして居る、ア丶彼の方は幸福な人だなど丶羨しくもなり、また猜みたくもなる、妻君は家庭の事では最も權力がある人でなくてはならぬ、然るに其人の斯くの如きであるとすれば、其の子女に及す感化も亦た斯くの如してあるとせねばならぬ、斯くては萬刧を經ても猶且つ女子から虚榮、猜疑の心を取り去り、自省の力を養ふことは出來ぬ、而してこの事の行はれぬのは、單り女子の不幸たるのみならず、家庭、延いては國家の大不幸と云はねばならぬ。然らば如何にすれば是れを矯正することが出來るかと云ふに、何所の家庭にも能くあることであるが、一ケ月の内に一度なり二度なり、赤の御飯を焚くとか、茶飯を拵らへると云つた場合に、其の機會を利用して、一家團欒の卓上、先づ主人からしてこの週間なり一ケ月間に自分の爲したることに於て、心に恥ぢ濟まぬと思つたことがあれば、包まず懺悔して聞かすのである、すると妻君に於ても默つて口へは出すまいと思つて居た失策をも、良心に咎められて自白するやうになる、自白は聽て自らを省て悔ひ悛むるの基である、また主人は其の席上で、古人と今人とを問はず、賢母良妻の歷史的逸事を話して聞かすことも必要である、さうして是れを語るに何んと云ふ婦人は斯んな豪いことをした、斯んな貞女であつた、お前など丶は較べものにならぬ、と云ふやうな、反問詰責の語句があつてはならぬ、夫れては矢張り女を壓し附けにした仕方で、反抗心を起さすばかりて、自らを省るなど云ふ心は決して起らぬものである、故に當て附けがましきことを云はず、温言以て席上を賑すやうにすれば、反省の必も起り、虚榮の心も去り、夫が打解けて、何事も隱し立てをせぬので自然猜疑の心も失せて行くやうになり、女子の人格を高からしむるのみか、家庭は圓滿に、和氣靄靄、何時も春の如き光りに浴することが出來るのである。

故に、能ふべくんば、是れを一族一家庭に止めず、席上在るものは唯だ一椀の澁茶、一片の煎餅のみでもよい、所謂向ふ三軒兩隣りの妻君達が、各自の家に順番に集つて、宗教家なり、また教育家なり、夫れがなければ此方面に多少の智識ある人なりを招じて、一席の講話に耳を傾くるやうにしたい、講話と云つても、素より多數の會合でない、唯だ茶飲みの席であるから、演者と聽者の資格を區別するやうなこともなく、至つて睦じき、家族的の會合にして、不知不識の間に信仰心を喚起さすやうにしたい、信仰心が堅固であれば、虚榮心、猜疑心などは起らぬ、起つても早く自省して改めるやうになる偉大の力がある。

猶ほ更に進むで能ふべくんば、愛國婦人會の如き、何拾萬と云ふ會員を有して居る團體が卒先して、全國各町村の會員を各町村毎に毎月一回一堂に會せしめて、然るべき人の講話を聞かすやうにしたならば、其の集りも容易であり、一般の女子が受くる利益と幸福は實に尠くないことであらうと思ふ、斯くて一郷相睦み、隣人相和し、家庭が圓滿に治つて行くとすれば、人生の至樂こ丶に盡きたりと云ふも可なりてある。

女子と高等教育

評議員　廣岡淺子

女子に高等教育を施す可き必要あることは、私共既に十數年以前より主張して居る事柄てありまして、夫れ故に女子大學をも助成して建てさした程て、女子に高等教育を施す可きや否やの問題は、既に過去に屬して居ることかと思ひます、女子に高等教育の必要ある所以は、女子をして職業的位置を得せしめんが爲めてはありません、女子が職業を得る爲めばかりなれば、左程骨を折らなくてもよろしい、寧ろ高等の教育を施すの必要はないかと思ひます、夫れよりは良妻となり賢母となることが必要であると思ひます、殊に女子は男子の母とならねばなりません、善き男子を作るには高き教育を受けたる母がなくてはなりません、母は其の愛情と智識とに依つて、其の男の子を教育せねばなりません、己の產んだ子からして馬鹿にされるやうな母ては、其の子を立派なる人に仕立てることは出來ません、今日の青年は何うてありますか、父親の云ふことには多少耳を傾けますが、母親などの云ふことは殆ど聞入れないのが多いてはありませんか、中學時代の男の子の思想ては、己の母は皆自己より智識の足りない人のやうに考へて、母の訓言に從はず、母の威力も行はれぬと云ふ傾きがあります、斯くして果して完全なる第二の國民が作られるてありませうか、元來教育と申すことは、書物を多く讀んで廣く物事を知ると云ふだけが教育の主旨てはありません、要は己の爲す可き仕事を適當に處理す可き能力を養ふることを云ふに過ぎぬのてあります、假令ば政事家なれば、其の時代に起りし事件を最も適當に判斷し、是れを公平に處理する手腕を有するものが、爲政家として貴ばれるのてあると同様、女子も一家の妻となつては、妻としての適當なる職分を盡し、母となつては又母としての適當なる職分を盡してこそ、始めて良妻と云はれ賢母となる次第てあつて、是等の職分を適當に盡さんには、豫ねてより蓄へたる能力が、無くては出來ません、此能力を養ふことが則ち教育てあります、高等なる教育を受けたものは兎角く高ぶると云ふ嘲りがありますが、決してさうてありません、善く教育された者ほど謙讓の德に富むで居るもので、熟實れる稻が自然と頭を垂る丶と同じてあります。

今日の女子教育はまだ〳〵高等なものにせなくてはなりませんが、之れには未だ多少の年月を要することと思ひます、女子高等教育論者の内には、帝國大學を開放して、女子にも講聽の權利を與へるやうとの說もあるやうに聞きますが、男女學生の取締さへ能く付けば、宜しいが、今日の處ては男女交際など云ふことと は、まだ〳〵行ふてはならぬ時代と考へます、數百年來男子の爲めに壓付けられたる日本の女子の力は、まだ薄弱でありますから、男子と對等の步調を取ることが出來ないのみならず、日本の男子は紳士としての資格に缺けて居る處が多い、有名なる政事家ても、其の品行は實に修らず、人の師表たる可き人さへ、品行が不充分てあるから、自然社會一般の品生が高くないのてある、其の中に向つて可弱き女子を放り出すと云ふことは、中々危險の業てありまして、過度時代の今日の社會ては、未だ行ふ可らざることと信じます、從つて男子の學生と相交つて、帝國大學の講義を聞くと云ふまで進むには、多くの年數と修養とを要することと思ひます。

酒句土產

評議員　中山幸子

▲酒句の別莊にてよめる

秋のよの月はのぼりて眞鶴の
　みなとさやかに見えにける哉

▲酒句の別莊に松翁壽の生ひいづるによめる

わか宿の松のはやしに松翁壽
　生ひいつるこそ慶度かりけれ

▲秋しづかなる雨の日に

靜なる雨をめてつゝ見渡せば
　稻葉なひかす風たにもなし

▲夏の日さかりに富士の根に殘れる雪を見てよめる

神代より殘れる富士の白雪に
　見れは暑さも忘れつるかな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

懸賞小說

武田櫻桃　三島霜川
江戸靜川　三氏合選

結婚論（三等）

花輪余志野

『姉さん鳥渡御覧なさい、こゝに大變な記事があッてよ。』と某私立學校の教員を奉職して居る秋子は、今朝出勤前の、少しの閑を偸むで袴を着けたまゝ、椽側で新聞を讀むで居たが、突然に今針仕事にかゝッて居る嫂の春子に斯う聲をかけたのである。

『大變なことッて何？　秋さんのは何時でも前詞が大きいから……。』と云ッて、春子は仕事の手も止めず、振向いて見やうともせぬ。

『アラ彼麼ことを、姉さんはお口が惡いわ、是れこそ大變なこと、私達の人格に關はることだわ。』

『ヘーエ、女の先生は廢止になるとでも云ふんですか、ホヽヽヽ。』

『厭だ、姉さんは茶かしてばかり居らッしやるのだもの。』

『夫れじや、その大變なことッてのは何んなことか聞かして下さい。』

『夫れは、斯う云ふ題なんですよ。』

『何う云ふ。』

『迷へる女子に與ふる文。』

『本當に大變なことらしいわね。』

『そら御覧なさい、大變なことてせう、是れが私の獨身主義を攻擊した結婚論てすよ、マア憎らしい。』

『秋さんを目標にして書いたのぢやありますまい、一般の獨身主義者を指して書いたのぢやありませんか。』

『それはさうてせうけれど、私は獨身主義ですから。』

『マア本文を讀むで聞かせて下さいな、本文を見ないことには何方らに理があるか判かりませんわ。』

『ぢや讀みますよ。』と云ッて一段半ばかり、秋子は息も吐かずに讀むで了ッて

『穩には書いてあるけれど、この末文に

獨身の女は園なき花園、花園に園なければ、腕白なる童の手足にて見る影もなく荒され申し候、美しき女性の世に立つは、花園を惡童の前に公開するに似通ひ申し候、何れ受くべき損害は測られぬものに候、教育に從事する女性などにこの弊多きは考ふべきことに御座候、

とあるは、姉さんは何んとお思ひなさるか知らないけど、私は口惜しく思ひますわ、園なき園の花と云ふ名詞は、非常に輕侮の眼を以て女子を見たものとしか思はれませんわ。』

『さうね、けれども無理な言葉ではないと思ッてよ、隨分相當の學問もあつて子弟を預ッて居る婦人に、言行の一致しない方もあるやうだからね。』

『さう姉さんに云はれると、實際そんなのが時々あるものですから、私達までが見下げられて、其の結果斯んなことを云はれる、何故當今の女子には男子に凌駕されない、モ少し氣慨のあるものがないのてせう、財產も何にもなくて獨立しやうとするには、勢ひ園のない園にも立たなければなりませんが、同じ園に立つにも、今云ふ惡童の手足に荒らされる花とはならいて、束縛を避けて翼と云ふ自力て以て、自然の花の咲き匂ふ廣い野を飛び、舞ふて居る胡蝶となれば、猥りに惡童の捕るを許さず、何んなに樂しいことか知れない、獨身主義の人は皆んな胡蝶の心になれば宜いのですがねえ。』

『オホヽヽ、秋さんは氣樂なことばッかり、什麼に行けば樂みてもあらうし、斯んな結構なことはないてせうけれど。』

『では獨身主義には反對なんてすか。』

『だから秋さんは氣樂だと云ふんてすよ、姉さんなんかモウ二人の子持ちじやありませんか。』

是れには秋子も可笑かッたと見へて、クッ〜と忍び笑ひ、フイと立ッて書齋に入ッたが、軈て筆を奔らせて「某氏の迷へる女子に與ふる書を見て」と前書して

獨身の女子を園なき花園とは、實になさけなき名詞を附せられしもの哉、而も是れを不條理不適當の言として排斥し得ざる女子の多き口惜しき限りにこそ、某氏の云はるゝ如く、現今獨身生活をなせる女子の思想比較的薄弱にして、馥郁たる花を惡童の折るにまかせて恨みとせざる、花そのものは無感覺無精神の植物とするも、是れを培ひ養ひたる園の主の心や如何ならん、茲に於て我が望むところは、宜しく廣野に遊ぶ胡蝶となりて飛揚し、天然の花に戲れ花に宿りて、彼の惡童に汚さるゝ勿れと云ふにあり、是れ實に犯すべからざる自重、園なき園の花の及ぶ所にあらざるなり、猶ほこの精神、乃ち胡蝶の自重は單り獨身主義をとれる者のみの範圍に止まらず、一般未婚の女子に望む所なり。

と書き出だして野紙に五枚ばかり、書き了ッて得意氣に其を讀み下し

『匿名だから大丈夫だわ。』

と獨り言ちながら封をなし、鳥渡時計を眺めて

『おやモウ十五分しかない。』

慌てゝ其所ら取片附けもせず、急いで封書懷中に門外へ出て、其處なるポストに夫れを投げ込むや、傍目も觸らず、教の場にと急ぐのであッた。

アヽ未婚の人、獨身主義の秋子、あはれ秋の胡蝶の脆き運命を知らずや、花の香失せて夢醒むるの時や如何に。（をはり）

東西名婦傳

ゲーテの母

文學士　原　弘毅

ヨハン、カフパーの妻カタリナ、エリザベートは、亦詩聖ゲーテ氏の母たるに恥ぢざりき、ゲーテ氏其の自叙傳中に記して曰く『予は嚴君よりして容儀帶佩と、眞摯なる處世の心術とを傳へ、更に阿母よりは快濶なる性情と、小說稗史を物する嗜好とを承けたり』と。

エリザベートの夫カスパーは、其の妻に長ずること二十一歲にして、才を恃み己を信じ、嚴正苛酷なりきと評せらる、若うして法律を學び、異常の學識を習得するや、非法の陞敍を求めて得ず、艴然として大に怒り、爾來再び官途に就かず快々として邸內に閑居せり、此の如きの時に當りて、此の如きの人に見えたる、我がカタリナ、エリザベートは、芳紀僅に十七歲なりき、而も能く其の夫に事へて、琴瑟和合の至樂をうけ、共棲すること三十四年に及ぶ、結婚後一年にして長男ヴォルフガング（詩聖の名）を擧げ、二年にして長女コルネリアを設く、之より夫妻は、專ら兒女の養育に任じぬ、其の高足の麒麟兒をして、苛酷なる嚴文の鞭撻を厭ひ、自暴して埒外に逸出するに至らしめざりしものは、竊に緩急を按配する、慈母の在りしによらずんば非ず。

七年戰爭の酣なるに當り、佛軍はフランクフルト市中に進入し、トランク伯爵はゲーテ家に舍營れり、當時市民は中立を宣言せるも、カスパーは元フリードリッヒ大王の崇拜者なるが故に、トランク等を見ること蛇蝎の如し、乃ち二人の衝突を未萠未發に防がんと欲し、之が和解に腐心せる、夫人の心緒は察するに餘あり、之より先伊語を習得せるエリザベートは、今亦新に佛語の練習を始めて、トランク大尉との應對を圓滑ならしめんと欲す、中年を超えたる女主人が、己の爲めにとれる此の勞苦を見て、伯爵は大に夫人を德とせりき、彼のカスパーが一端監禁せられて、而も軍法會議に附せらるゝに至らず、直ちに放免せられたるものは、夫人の力多きにをるなり。

其の兒の雷名轟くに及び、エリザベートは廣く上下の人々より、刀自の尊稱を以て迎へられ、詩聖の母たるに背かざるを示しぬ、其の自讃の言葉に曰く『神明の加護のあればこそ、身分年齡男女を分たず、人皆妾と交るを樂しむなれ、妾は他を愛し他も亦之を感ず、嘗て嘘僞りを構へたることなきは、世人の快とする所なり、他人を規諫したることもなく、一向其の長所を見るに努めぬ、其の短所の如きに至りては、圭角を磨滅するに巧みなる、神明に任せ參らするを可とす、妾は此の如くにして、安靜幸福滿足するを得たり』（シユタイン夫人への書狀）と、以て平生の本領を見るべし。

一八〇八年九月十三日、新涼室に入ッて天下秋を覺ゆるの候、此の交際に巧みに友誼に厚く、瓢逸詼諧なりし老夫人は、萬人悲痛の嘆聲裡に、兼ねて先立たる愛人愛孃等の跡を追ひつゝ、殆んど眠るが如くにして、天國再生の素懷を遂げぬ、時に齡七十有七なり、噫。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衛生小說 長命の秘訣

糸左近

君子といふは某子爵の夫人て、何の不自由も無い身、或る日の夕方、縁側に涼んてゐると「ゴーン」、遠寺の鐘は古い小說かの如く餘音を響かせて聞ゆる。「嗚呼私も今年は四十九、來年が定命、言はゞ棺桶へ半分入つてる身體、實に人生は朝露のやうなものだなア」斯う考へて見れば、何だか心細くなつて、鈍い頭痛さへ加はつて來る、散歩てもしようか」と、従者をも伴れず、ブラリ〳〵足に任せてゐると、何時の間にか或る寺の境内に來た、何寺かと問へば、長命庵といふ尼寺とのこと、長命庵、名だけ聞いても何となく懷かしい、て早速庵主に面會を求め、奧に通れば、庵主は莞爾〳〵として、

「何用あつて來給うたか」

「ハイ私は今年四十九、最早餘年も無い身て御座いますれば、御佛の敎ても聽かせて頂きたいものだと思ひまして……」

「敎を聽かせてくれ、其の御心は殊勝なれど、餘年も無いなどゝは、ハヽヽヽ、何から割出した勘定て御座る、拙尼は今年百二十歳てありますが、決して餘年の無いなどゝは思ひませぬ、まだ〳〵生き長らへて少しても知つてる事を世の人に知らせたいものだと、日夜に心を働かせてゐます、貴女は長生したくありませぬか、五十て命を思ひ切りますか、五十て思ひ切るやうな人は言はゞ自ら命を棄るのてす、自ら棄るやうな人には、佛は命を與へませぬ、一日ても世の爲に盡したいと思ふ人には、長命をさせて下さいます、彼の官途に就いてる人が年老いたからとて、辭職の上風月を友と致しますれば、俄かに老耄れて了ひますが、職に在つて何處までも精神の活動を止めぬ人は、八十九十までも、長らへて而も老耄しませぬ、ですから健康長命の源は唯精神に在るのてす、今一例を擧れば重病の人が遠方なる親戚或は朋友に逢ひたいと待つてる間は生きてるけれど、逢つて遺言も濟み、既に死を覺悟する時はピシヤリと燈火の消ゆるが如くに眠ることは能く在る例てはありませぬか、又醫者からも聞いてゐます、病人が自ら治らぬと信じてるのは、治る可き病も、仲々容易に治されぬが、治ると信じてる病人は意外に善い成績のあるものだと、されば貴女も心細い氣を取り直して「愛國婦人會」の爲にても大いに活動せられよ、精神の活動さへ止まねば八十九十は愚か、百歳以上までも必ず健康に長命することが出來ます、故に貴女が其氣になつて冗言にも年老つたなどゝ言はぬことを誓はれぬ以上は、拙尼は決して御佛の敎を話しませぬ、先づ是から決めてかゝりませう。」

「成程さうて御座いますね、心得違をして居りました」と、君子は大いに感じ、庵主の黑白い長き眉の如何にも神々しきを拜んでると、

「奧樣「愛國婦人」が參りました」

「エーッ」

顧れば之は假寢の夢、けれど君子夫人は之を夢とは爲ずに、正しく「自然」が妾に敎へ玉うたのてあると、之より生れ變つた機に精神を快活にして世の爲に盡し、明治は九十年の春、萬朶の櫻咲き香ふ上野の公園に、愛國婦人總會の開かれたる席上、百歳の身を以て、滔々「長命の秘訣」を辯じられたとは目出度〳〵。

グニヤ〳〵とピン〳〵

久津見蕨村

▲「姉ちやんお人形で遊びませう」とは女の兒が姉さんに申す言ばかりではありません。男の兒ても外に男の兄弟がなくて姉さんばかりだと能く申す言てす、誠に優しい可愛らしい言葉と思はれます。

▲「兄ちやんや、あたし兵隊さんよ」これも男の兒が其兄に言ふ言ばかりてはない女の兒ても外に女の姉妹がなくて兄を持つてをると兎もすれば云ひ出すとてす。之も勇ましい可愛らしい言葉てす。

▲けれども退いて考へてごらんなさい。之れては男女反對てす。男が女のやうで女が男のやうてす。勿論小童幼女の中は女も男も無區別なことがありますから、之れても構はん譯てす。併し男の兒は飽く迄も男らしく、女の兒は亦どこまでも女らしいのが善いてはありませんか。イヤ必ずそうありたいものてす。

▲所が人は生れ落ちるとから境遇に支配されますので、姉さんばかりしかない男の兒、兄さんばかりの女の兒は得て仕て男女反對になりたがります。「お前は男の兒の性癖に女のやうだネ」とか「女の兒てありながら荒々しい男の眞似をしてはいけません」とかのお小言が出るやうになりますのは多く之れが爲てす。

▲てすからそう云ふお小言を發言まへにその所の原因を考へて頂きたい。そして男らしい男の兒、女らしい女の兒がお望みならば姉さんや兄さんの感化に就て何にとか工夫をさらなければならんてはありません乎。

▲そして三つ兒の魂は百までとも申します。幼時に受けた感化は能く長く續きまして、成長の後も往々出ますものてすから、誠に男の中の男にしたいとか、優しい女にしたいとか思召したら──實際誰れもそう思召すに違ひないとすれば、小童幼女の時から例令兄弟姉妹ても異性の感化と云ふことに就て、十二分の注意をなさらねばなりますまい。

▲成るべくは、男の兒は男の兒と遊ばせ、女の兒は女の兒ばかりと遊ばせたい。就中男の兒を姉さんばかりと遊ばせて置くのは餘り宜しくないと思ひます。成長の後男のくせにグニャ〳〵して女のやうだつたり、女てありながらピンピンして男見たやうだッたりするのは、詰り斯う云ふ所からも來るやうに想はれます。

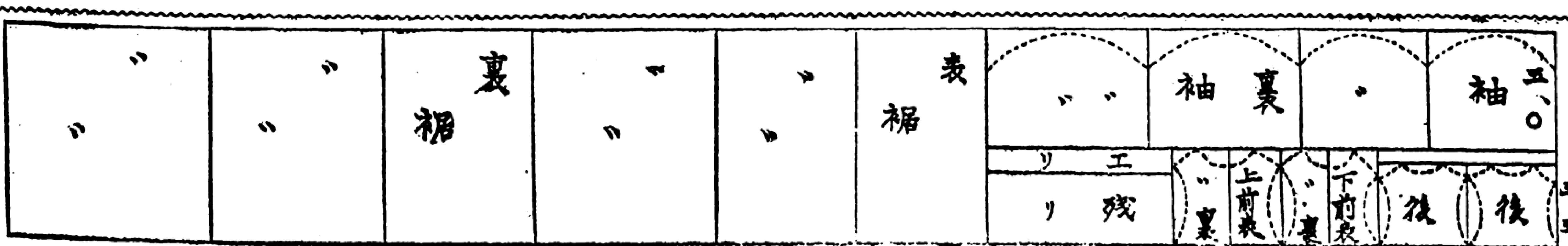
夏の簡易なる小兒寢衣

ドクトル 川瀬元九郎氏 永井左近氏 合選

▲三等 東京 林浦子

私は總て和洋折衷にして、木綿巾の有合せにて出來る、簡易なる衛生的小兒寢衣を案出しました。

▲袖丈 四寸五分▲袖口 二寸五分▲袖付 三寸五分▲衿廻 開襟▲衿止ホーク止▲衿下四ヶ所ボタン止▲八ツ口 日本服の如く一寸五分明き



切地 は木綿幅全部袷になし、一丈五尺要ります。

縫方 は日本服の袷の如き筒袖に縫ひ、胸當の肩の所を四枚合せて縫目を前に返し、前明きの立の所を縫ひ置き、さうして裾六布をとりて四ツ縫ひに（表裏六布なれば出來上り三布となる）なし、下部の裾も縫ひ、尙ほ上部に襞を取り、前明きの所はボタンを付ける爲め少し縫ひ込みを深くし、斯くして前記胸當の幅に相應するやうに襞を縮めて胸當に縫付け、次に袖を裏にて綴け、八ツ口を明け、衿は殘り布にて細く縁を附け、衿の上部はホーク附けにし、其の下の四ケ所はボタンて止めるのてあります。

實驗 着せるには日本の服の如く八ツ口が明いて居りますので、手を通すにも別段の無理がありませず、また襁褓を取替へるにも至極樂てあります。

下着 としては、腹掛をあて、普通の襦袢の上に是れを着せるのてあります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

●評議員會　九月中の評議員會例會日取りは左の如し

九月廿六日（第四水曜日午後二時）

●總裁殿下支部總會御臺臨　兼て報ぜし如く山形秋田兩支部總會へ御臺臨の御豫定の處山形支部內に於て惡疫流行の兆ある故同支部總會は延期となりしに付き秋田支部のみに御臺臨あらせらるべく隨行員は評議員伯爵夫人酒井夏子氏評議員跡見花蹊氏事務長補助高松鐵太郎氏及愛國婦人記者手島益雄氏にして去る十七日御出發相成りたり當日上野驛に御見送り申上げたる諸氏は左の如し

▲會長　岩倉久子

▲理事　近衛貞子　鍋島榮子、谷玖滿子、島津田鶴子（代人）

▲評議員　佐竹祚子、戸田時子、佐竹琛子（代人）　千家俊子、濱尾作子、佐藤猶子、佐藤靜子、有島幸子、中山幸子、室田せい子、古市かう子、原禮子（代人）

▲會計監督　佐藤正

▲東京支部幹事　寺井とよ子、飯塚里子、秋間爲子、前田とみ子、關萬代子、內海さく子、三橋菊尾

尚ほ御發着割は左の如し

△九月十七日　上野御發　午前八時五十五分
　　　　　　　福島御着　午後五時三十五分
△九月十八日　福島御發　午前六時二十五分
　　　　　　　秋田御着　午後七時八分
△九月十九日　秋田總會
△九月二十日　秋田御發　午前六時十五分
　　　　　　　福島御着　午後七時四十五分
△九月二十一日　福島御滯在
△九月二十二日　福島御滯在
△九月二十三日　福島御發　午前九時十四分
　　　　　　　　上野御着　午後六時五十五分

●北海道支部へ出張　九月廿三日北海道支部總會開催につき本部よりは評議員子爵夫人伊東美津子評議員高木鐐子評議員柳谷千代子事務員小池綠一郎の諸氏九月十九日上野發の汽車にて出張し廿七日歸京の豫定なり

●寄附金披露　其の後金拾圓以上の寄附金者左の如し

一金百五拾圓　清國牛莊　韶庭
一金八十六圓　臺南英國教會代表者　バークレー夫人
一金四十五圓　東京豐多摩郡　浮田美枝子
一金貳拾五圓　石川縣　富樫一葦
一金貳拾圓　京都府　上田絹子

以上の內浮田美枝子の分は騎兵少佐浮田家雄氏の亡妹愛子生前の遺言に依りて香奠の內を寄附せられたるものなり

各地支部狀況

▲秋田支部　第一回總會を九月十九日開催左の順序により執行せり

第一鈴
一參列者入場整列
第二鈴
一君ケ代吹奏　（一同最敬禮）
一總裁殿下御臨場
一支部長開會の辭
一三十七八年戰役に關し本會へ賜はりたる御令旨捧讀　支部長（一同最敬禮）
一奏樂
一支部長職員名簿及會員表捧呈
一總裁殿下御睿旨　（一同最敬禮）
一支部長奉答
一支部副長會務並に會計報告
一會長祝詞
一支部顧問來賓會員總代祝詞
一總裁殿下有功章御親授（二等有功章　三等有功章）
一總裁殿下廢兵總代遺族惣代に特別賜金御授與
一支部長閉會の辭
一君ケ代吹奏　（一同最敬禮）
一總裁殿下御退場
第三鈴
一參列者退場

尚同支部總會の事務章程の要領を掲ぐれば左の如し

一事務所を縣廳內に置き支部長顧問之を統理す支部長顧問事故あるときは先任副長相談役に於て其事務を代理す
一主事は各係を監督し諸般の事務を處理せしむ
一總會に左の係を置き其事務を分掌せしむ
　式場係　御旅館係　旅宿係　庶務係　會計係　接待係　衞生係　餘興係
一各係に係長を置き其の事務を管掌せしむ
　但各係長事故あるときは其係員中より事務代理者の指命を請ひ處理すべし
　式場係は總會に關する式典一切の事務に從事す
　式場は公會堂の南方空地を以て之に充て雛設する事
　式場總門等の裝飾に關する事
　來賓（佩有功章者、遺族、廢兵等）及會員席を設くる事
　受付及徽章、印刷物（式の順序書）、紀念品、菓子折詰等の交付所を設くる事
　救護掛（赤十字社救護員）詰所を設くる事
　式場內外適宜の場所に便所を設くる事
一御旅館係及旅館係は總裁殿下御一行御宿泊の設備及參會者の宿割に從事す
　御旅館は佐竹侯爵別莊を以て之に充つ
　御旅館の裝飾　御賄、殺給仕及御旅館內外の警衞に關する事
　來賓（佩有功章者、遺族、廢兵、金鵄勳章受領者其他）及會員の宿割に關する事
一庶務係は總會に關する庶務に從事す
　文書の收受及發送に關する事
　通信往來に關する事
　來賓（佩有功章者、遺族、廢兵及寄附金五圓以上の者其他）へ案內狀を發する事
　來會者參列者へ案內狀を發する事
　總會當日受付に關する事
　紀念品及其他交付品に關する事
　各種徽章調製の事
　入場券其他印刷物（參列者心得書）に關する事
　獻上品に關する事
　廣告に關する事
　人力車の手配其他一般運輸に關する事
　人夫小使に關する事
　實會の設備に關する事
　各係に於て要する物品調達に關する事
　前項の外總會に關し他係の主管に屬せざる事項
一會計係は總會に關する出納並用度事務に從事す
　諸般の費用支出に關する事寄附金品其他收入に關する事
　物品の用度に關する事
　收支整理並報告に關する事
　前項の外總會に伴ふ諸般設備に關する事項
一接待係は貴賓の送迎及參會者の接待に從事す
　總裁殿下御一行並に貴賓の送迎に關する事
　學校生徒各團體員其他一般來賓送迎に關する事
　式場內參會者並來賓接待に關する事
　實會場の接待に關する事
一衞生係は總會に付衞生施設に從事す
　沿道の掃除及清潔法執行の事
　御旅館及式場附近清潔法執行の事
　式場內衞生に關する事
　救護掛（赤十字）救護員に關する事
　前項の外防疫衞生に關する事
一餘興係は總會當日左の事項に從事す
　煙火に關する事
　竿燈に關する事
　式場內外の取締に關する事
一各係員は各其主管事項に付互に其順序方法を協議し經伺の上執行すべし

▲北海道支部　第一回總會は九月二十三日午後零時三十分より札幌農學校附屬博物館構內に於て開會し戰死者遺族及廢兵に對し總裁殿下の御染筆並に御下賜金下賜の旨を千百四十七名に向けて通知し同時に左の注意書を發布せり

一參列者は一家族一人にて必ず本人に限る事
一參列の節は優待員章を佩用し招待狀を必ず持參の上會場入口受付係へ渡すべき事
一當日總裁宮殿下の御染筆御下賜金は代理參列者にはこれなき事
一參列通知の方は汽船汽車割引券を送る
一參列者は靴又は草履の用意を爲す事

▲京都支部　本月七日評議員會を開き木下常子外五名出席の上左の諸項を協議したり

（一）廢兵慰藉及び授産に關する件
（二）廢兵黒田亦吉氏外二名に對し特別救護を行ふ事
（三）幹事辭任の件（可決）
（四）役員囑托の件（可決）
（五）廢兵現況調査に關する件

愛國婦人會々員數並に女子人口比較表（明治三十九年七月末日調）

支部名	特別會員	通常會員	合計	三十六年末女子人口	女子人口百人に付會員比例	贊助員
石川	一、九七八	一九、五八三	二一、五六一	三八五、四七八	五、五九	七九四
山口	八三五	二六、二七九	二七、一一四	五〇六、九二〇	五、三五	一、〇七五
山形	八三三	一七、三〇八	一八、一四一	四三九、六一八	四、一三	一四三
岡山	一、〇四四	一九、七一四	二〇、七五八	五七七、二七二	三、六〇	三六三
福岡	二、四九三	二二、二六八	二四、七六一	七七二、七四三	三、二〇	九五四
熊本	二、八二一	一六、六五五	一九、四七六	六一〇、四一一	三、一九	二、三〇二
京都	二、一二六	一三、四九九	一五、六二五	五二一、三九五	三、〇〇	三六九
富山	八二四	一〇、六七四	一一、四九八	三八四、九八二	二、九九	六四三
愛知	一、二〇三	二四、四一八	二五、六二一	八六八、五三八	二、九五	六三一
群馬	一、三七六	一一、七四二	一三、一一八	四五四、一七一	二、八九	二一九
香川	七九一	九、二三八	一〇、〇二九	三四七、八九〇	二、八八	三五〇
兵庫	二、〇六一	二三、二九六	二五、三五七	八九三、七三四	二、八四	四九六
北海道及函館	二、七七七	一一、五三二	一四、三〇九	五〇七、三三八	二、八二	一、〇六〇
長崎	三、一〇四	一〇、〇五六	一三、一六〇	四八九、三五〇	二、六九	五二
宮城	一、四三四	一〇、二七六	一一、七一〇	四四五、〇四七	二、六四	七〇七
愛媛	三六六	一二、二二九	一二、五九五	五一一、三九六	二、四六	二八四
青森	一、〇五一	六、七一四	七、七六五	三二二、二一一	二、四一	二六八
大分	七九九	九、五〇一	一〇、三〇〇	四三〇、〇二五	二、四〇	四一七
神奈川	一、三七〇	一〇、三九九	一一、七六九	四九九、六二三	二、三六	二六二
島根	二九九	八、〇四〇	八、三三九	三六二、六三五	二、三〇	四〇四
佐賀	八三二	六、四六一	七、二九三	三二七、六七八	二、二二	一九七
奈良	二九一	五、六九〇	五、九八一	二七八、一九一	二、一五	三二一
三重	四〇三	一〇、六七六	一一、〇七九	五二二、〇四三	二、一二	三四五
高知	二五三	六、四二三	六、六七六	三一八、二四五	二、一〇	六一三
福井	七一五	五、九九四	六、七〇九	三二〇、一五四	二、一〇	九八八
岩手	六六二	六、八八九	七、五五一	三六九、二七八	二、〇四	一九七
宮崎	二四二	四、七五二	四、九九四	二四七、二五二	二、〇二	四四八
滋賀	四八二	六、五五〇	七、〇三二	三六四、六八八	一、九三	二、七五七
福島	一、一五九	九、五三六	一〇、六九五	五八二、一五六	一、八四	五四五
東京	七、二九七	一一、九六四	一九、二六一	一、一五二、五一四	一、六五	五〇六
德島	三一四	五、四二九	五、七四三	三五二、六七八	一、六三	八一
大阪	二、九九五	一〇、九二七	一三、九二二	八六四、四五八	一、六一	一、〇二六
廣島	一、三九一	一〇、〇六三	一一、四五四	七四九、四六五	一、五三	七〇六
千葉	九七五	八、六三一	九、六〇六	六五七、七五二	一、四六	三三一
山梨	三二五	三、一二四	三、四四九	二七二、一四八	一、二七	一三九
茨城	五二八	六、九五五	七、四八三	六〇〇、四一三	一、二五	五六
鹿兒島	一、〇三七	五、五二三	六、五六〇	五九四、九八五	一、一〇	三三四
秋田	五〇一	三、七一一	四、二一二	四〇三、九四六	一、〇四	一、二七四
和歌山	二六一	三、二五七	三、五一八	三五〇、〇六九	一、〇〇	三七一
埼玉	三五五	五、八一一	六、一六六	六二七、五五六	〇、九八	三九三
鳥取	一六一	一、八七七	二、〇三八	二一七、五四一	〇、九四	三六九
岐阜	六四九	三、七八一	四、四三〇	五〇二、六五八	〇、八八	四二四
靜岡	三九二	四、四二五	四、八一七	六四〇、八四八	〇、七五	六八
沖繩	三二一	一、三一九	一、六四〇	二三九、五二七	〇、六九	九三
長野	四九八	四、一三八	四、六三六	六七四、五一五	〇、六九	五六一
新潟	七二三	四、七九一	五、五一四	八九九、〇二一	〇、六一	八二一
栃木	二八四	一、八一九	二、一〇三	四五〇、一二六	〇、四七	一六三
臺灣	一、〇六九	三、二四四	四、三一三	一、四〇二、七七一	〇、三一	八、一一三
海外	七三二	二、一二二	二、八五四	｜	｜	二、六七六
合計	五五、四三二	四五九、三〇三	五一四、七三五	二五、三一三、〇四〇	二、〇三	三六、七〇九

備考　支部の配列は會員比例數の多きものより順次配列す
北海道及函館の兩支部會員は合算して掲載せり而して函館支部會員は特別會員四百八十八人通常會員千五百九十四人にして他は北海道支部會員數なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供クラブ

龜子さん

江戸静川

龜子さんと云ッて、今年八歳になる可愛らしいお孃さんのお家に、夫れは美事な丹頂の鶴の番が居りました、是れは龜子さんのお父樣が、朝鮮から持ッてお歸りになッたもので、モウ五年も飼はれて居りますので、誰にでも能く馴れて居りますが、其の中でも龜子さんとは最も間好て、龜子さんは始終お庭園へ出て鶴と遊びます、亦た鶴の方でも、龜子さんの姿さへ見れば、例の長い脛で傍へ驅けて來て、龜子さんの袖なんかを咬へて喜むで居りました。

鶴の身長の高さは、龜子さんと同じ位ゐあるので、龜子さんは五歳六歳の時分には、乳母に抱ッこして貰ッて、鶴の脊に乗ッかッて遊むだことがありましたが、今ではモウ龜子さんが大きくなッたので乗ることが出來ません、出來ませんけども龜子さんは、まだ／＼この鶴が大きうなッて、さうして自分を乗せてお庭園ばかしてなく、奇麗な花の咲いた廣い野や、お甘い美しい菓物の生つた山の中や、遊びに連れて行て呉れる、乾度連れて行ッて呉れると思ッて居りました。

夫だ者てすから、鶴の好きさうな餌は、お母樣にお強請をして、澤山に鶴に食させて、さうして鶴の脊を撫でゝ遣りながら

『鶴や、お前お甘い物を澤山り食べて早く大きくなッて、龜が浦島太郎を乗ッけて、龍宮へ行ッたやうに、私を乗ッけて、奇麗な美しい所へ遊びに連れてッてお呉れ、れ、れ。』

と頼みますと、鶴は、長い嘴をカチ／＼云はせて、『承知しました』と云ふ體に、首を掉るのでありました。

一日、龜子さんはお座敷の縁頭で、千代紙で鶴やお三寶を折つて遊むで居りますと、其處へ鶴が遣ッて來まして

『お孃さん、私は貴女に可愛がッてお甘い物を食べさせて頂くので、斯ンなに大きくなりましたから、今日は貴女を乗ッけて遠い所へ遊びに行かうと思ひまして、お迎ひに出ました。』

と云ふので、龜子さんは大喜び、千代紙なんかは其處へ投り出して置いて、急いて鶴の脊に乗ッかりました、鶴は

『大丈夫ですか、おッこちては不可ませんよ。』

と云ッて、羽搏き一ッするかと思ふと、スート其儘舞ひ上がッて、見る／＼うちに碧空高く、高い／＼と思ッてたお庭園の松もお家も皆な下になッて、聽ては夫れが箱庭のやうに小さく／＼なつて、終には影も形も見へなくなッたと思ふと、其處には美しい虹霓の橋

『さア來ました、お孃さん此處からは歩いて行くのが面白う御座いますから、脊から下りて私に跟いてお出でなさい。』

と云ふので、龜子さんは鶴の脊から下りて、鶴の云ふなり後に跟いて、虹霓の橋を渡ッて行きますと、梅だの、櫻だの、百合だの、菫だの、牡丹だの、桔梗だの、菊だの、まア數限りもない美しい花の咲き滿ちた所へ出て、其の花の中の金や銀の砂を一杯に敷き詰めた道を通ると、見たこともない奇麗な鳥が、枝から枝を飛び交して、美しい聲をして囀いて居る、夫れから亦た一町許り行くと、金銀珊瑚の柱、錦の幔幕、七彩陸離として眼眩しいやうな立派な御殿の前へ出ました、するとピカ／＼光る星の冠をした、澤山のお姫樣が出て來て

『能く來ましたれ、さア此方へゐらッしやい。』

と云ッて手を取ッて、御殿の内へ連れて行きました、龜子さんは其處で大層御馳走になッて、夫れから舞踏や音樂の合奏を見たり聞いたりして、お家のことなんか忘れて了ッて、一日遊むで其晩はこの御殿へ泊りました。

金襴緞子の夜具の中、ウト／＼と眠ッたかと思ふと耳元で

『龜子さん／＼、めゝを覺ますんですよ。』

と呼ぶ聲がするので、ふッと眼を開けて見ると、起して居るのは姉さんで、自分は千代紙を手に持ッたまゝ、友禪の座蒲團の上に轉寝をして居たのでした。

碧空を仰げばモウ夕暮、お星樣は一ッ一ッと殖えて居る。（をはり）

動物園の此の頃

三島霜川

▲龜のお産　もし／＼龜よ、龜さんよ、と申します、あの龜は、今のところ狹いところに入れられてゐるのであります。尤も近いうちに、廣い場所を與へるやうになッてゐると謂ひますが、さて此龜のお産が面白い。お産と謂ッても卵を産むのですが、その産む時はと申しますと、先づ産をする場所を擇びます。擇むところを、後足でもッて土を掘るのですが、龜も掘ッてゐるうちに石でもあると、龜は、非常な苦心をして此の石を取除けなければなりません。もし石が、折角掘ッた穴へ落ちてもしやうものなら、それは大變、いくら骨が折れても時間がかゝッても、龜は、何うにかして此石を穴から外へ出して了はなければなりません。また出して了ひます。それは少し上げて落したり、大分上げては落したり。幾度となく失敗しながらも、何うにか此うにか石を出して了うのでございます。その熱心なことゝ謂ッたら、見てゐても哀になる位。さて石を出して、いよ／＼場所が出來ると、丁度鶏卵位の卵を三ッ四ッ産み落して、後足で砂をかけ、卵の中心點——眞ン中——に腹の眞ン中を載せて、これを押へつけ、卵を地面との高さを平均にして知らぬ顔をして何處へでも勝手に遊びに行きます。すると太陽の熱の惠で自然と卵が孵るのださうでございます。所が此處に哀な出來事といふのは、惡い龜がゐて、卵を産み落すところを覗ッてゐて、巧く卵を奪ッて喰べて了うことがあると謂ひます。これは一度卵の味を覺えた龜の爲ることで、龜が皆、こんな酷いことをするといふのではありません。

▲猿のお室　今度象の部屋の後の方に猿の遊戯室が出來ました。此室は高さが四間で、間口が五間に奥行が四間半、三方から自由に見られるやうになッてます。中に大きな椎の木が枝を擴げてゐて、これが丁度お家の大黒柱のやうになッて見えます。此お家に大きい小さいの、十五匹のお猿が棲ッてゐるのですが、ブランコも出來て居れば、階梯もあッて、お猿さん等が、退屈をしないで自由に遊ばれるやうに出來てゐるのでございます。何しろ、これまで、狹いところにゐたのが、急に廣いところにゐるやうになったものですから、お猿さん等は大悦。椎の樹にブラ下ッたり、ブランコをじたりして、何れも活潑に遊んでゐます。たゞ少し困るのは、皆未だ同居に馴れないものですから、何うも大きなお猿さんが、それは威張り散らして、小さなお猿さんを虐めてならぬことです。殊に食事の時などゝ來たら、それは大變。大きなお猿さんが、小さなお猿さんの分を無理にふん奪ッて、キャッ／＼といふ騒。いくら騒いだッて、小さなお猿さんは、大きなお猿さんに喰べられて了うのですから、小さなお猿さんは、齒を剝き出して赤い頬ッぺたを膨らせてゐるばかり。その代り、皆さんがお猿に何か與りなさる時には何時でも小さなお猿さんが萬歳て、お菓子でも何んでも、大概小さいお猿さんが頂戴して了ひます。併し此の騒も暫くのうちださうです、やがて馴れて來ると、大きいのも小さいのも大層仲が好くなるといふとてすから、お猿さん等にも友愛があると謂なければなりません。

▲鶴の舞踏　今度濠洲からはる／＼渡ッて來た動物のうちに、一番の鶴がゐます。一體鶴に限らず、動物は雄の方が多いのですから、雄の方で雌の御機嫌を取らなければなりません。御機嫌の取方は、動物に依ッて種々ありますけれども、鶴のは鳥渡變ッてゝ面白い。それは何樣な種類に限らず、鶴の雄は踏をして奥さんの御機嫌を取るといふ風があるのですが、濠洲から來た鶴は、舞踏を行るのです。舞踏と謂へば大層ハイカラのやうですけれども、實際のお話。何うです、皆さん、バイヲリンか何か持ッて行ッて、鶴に舞踏を行らして御覧になッては！

▲獅子と虎　どんな猛獸でもお友達が欲しいものと見えます。此獅子と虎とは、雄ても雄でも、共に猛獸ですけれども檻がお隣り同志だから、大變に仲が善いと謂ひます。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國文

秋のにほひ

（日記の一ふし）　人見東明

○

夜は靜やかに更けゆきて
靜に流る江戸川の
胸はわかき人の子が
夢をやときて湛ふらし。

木の間を落ち來る瀧の下を通つて、草の睡みも覺さぬやうに岸にさわらず舟は流れのまゝに下る、波さへたてぬ江戸川は、戀なき少女の胸のやうに靜である、星は仄かに、風はそよ／＼と、花の匂ふやうに來るさへもの優しい風情かな。

今宵は川もゆるやかに
甘き眠りの香にいこへ。
岸の町家にもの思ふ
少女が胸もなだらかに。

舟を下り、岸に上つて、人々と上下に分れ、S君を伴ふて目白の寓に歸つたのはもうかれこれ十二時。友は話に勞れてよく眠つて了つたが、私はどうしても眠むれない。

夜は更けたらしい、二十日あまりの月の光が水のやうに戸の破れめから流れて蚊帳の裾を洗つてゐる。（二十三日）

○

身體に一脉の生命の流れある限り、人は幾千度となく、この痛しい思ひ、儚ない憂ひに逢ふのである。

今日は人々と別れるのだ、四十日の會も果て、今この二階で最後の餠を交すのである。別辭を交したが最後、水に放れた魚のやうに、思ひ思ひの巣に歸つて、再び逢ふ縁も斷えて了ふ、かくて人々の胸なる日記は古い文字を塗抹し、新らしい文を誌して永刧忘却の淵に葬つて了ふのである。

知らずして相集り、相去つて、永刧影をひそめんとする、今日は丁度その一日である。

胸なる日記にしるしてし
人のこゝろもうすらぎて
影かの如きおもひでも
にほひだにせず消ゆる哉。

雲あわたゞしく行き交ふ、雨なりや、風なりや。（二十四日）

○

聲は美しいけれども、憂ひに沈んで、人の心に悲みを吹き込むやうなもの寂しい歌が止むと、間もなく眠ざめた、と同時に司會者佐藤夫妻の姿も消えた、あゝ私は昨日の會の夢を見てゐたのである。

玉の腕に抱かれて
やすき思ひあるものを
花の蔭より舞いづる
蝶よ夢をなまもれかし。

風強く、雨さへ添ふ、海にある友の身を思ふて心もとなし。（二十五日）

短文

題　秋の夜

▲神秘　熊本　植田芳子

秋の夜は萬象沈靜す、萩の上風草の露沈靜は絶對の消息なり、猶且つ無限の神秘を語るに似たり、されば情より動いて秋に化すれば美妙の詩を得べく、智より動いて秋に接すれば玄秘の哲理を得ん、見よ、崇高、平靜、浄潔、無限の諸相は明に秋の夜に觀らるゝにあらずや。

▲選者曰　聖者の訓言を聞くが如し

▲戀の辻占　鎌倉　中隈富士子

縁に出てすみ行く月を見入つて居ると、何處ともなくさら／＼と冷たい風が、かけ殘した軒の風鈴をそつと遠慮顔に動かせて行く、二三日前迄は隨分賑しかつた此町も俄に淋しく成つて、聞ゆるものは浪の音と、草葉にすだく蟲の聲許り、暫し恍然とする折しも、都にては冬の夜にのみと思ひつるに、電信便り戀の辻占と幼子の呼びて行く、何とはしらず哀れ深くぞ思はるゝ。

▲選者曰　味ある書き振りなり

▲詩趣深し　大阪　富永才子

炎熱の酷吏去つて淸風の故人來る、嬉しきは秋ならずや、日陰漸く短かくなりて夜長き頃となれば、燈火に對ひて讀み書き裁縫の業にいそしむもよく、月下に立ちて詩吟を聞くも樂しく、扨はまた一夜の宿を山里に求めて、露深き野邊の蟲の音、賤が砧の音などに、耳をすますも宜しかるべくや、四季を通じて詩趣深きは秋の夜にこそ。

▲選者曰　御同感の至りに候

▲野菊　岡山　武田須磨子

青木絹子

花壇の七草夕露の珠を列ねて、咲誇りたる籬の外、野菊の獨淋しく笑める姿、仰げば空は水の如く澄み渡り、今しさし昇る月の光りに照し出されたる野も杜も、さながら夢かとやう靜かに、感ひ深き夜とはなりぬ。

▲選者曰　簡潔

▲姉と弟　埼玉　森田竹子

姉さん早く來ないと大きい栗實は皆無くなつて仕舞ふよ、と今迄祖父が昔の腕白話を聞き乍ら栗を頰張つて居た弟は、突然慫う叫むだので、村雲に見え隱する月夜の景色を遠く朧氣に眺めながら、庭の唐黍畑で鈴蟲と轡蟲を餘念もなく聞いて居た姉は、ホヽと笑つて立たうとする機、蟲の音はたと止むで空の月は引き留め顔に、皎々と高く淸き姿を顯はした、内では弟が頻に姉さん／＼と連呼してゐる。

▲選者曰　繪にありさうな光景

▲秋興　京都　花輪余志野

「萱の根のなが／＼してふ秋の夜は月見ぬ人のいふにぞありける」となん古き歌にも詠れたる、げに秋の夜は月を愛で書讀むには此上なき好期にこそ、此時をわれは如何にして過すべきか、暑さにたゆみて後れたれば、先母君のあはせ衣を今宵の中になし終へむとていそぎつゝ、ふと見上ぐる軒端に妙なる月はさしかゝりぬ、あゝ月もよし文も見たしなと思へば、なか／＼に秋の夜こそ更やすけれ。

▲選者曰　趣味深き文字

▲砧の音　埼玉　水野淑子

獨り針運ぶ夜は更けて、四方りは森々と小笹のそよぎも心淋しく、山松の葉越に傾く月影も何となく物凄し、窓もる風は單衣の袖に寒さを傳へ、壁の隅に鳴き立つるつゞれさせてふ蟲の聲は甚くも身にしみて、怠りを戒むるが如く、容易くは夢も結びあへず、彼方向き此方向く煩悶の枕に、ふと聞きし砧の音、我は又起きて燈火かかげつ。

▲選者曰　力ある筆

▲月光蟲聲　京都　磯谷澤子

秋の夜程樂しき物はあらじ、月のいとよく澄みたる夕、縁に端居して獨りつくづく草叢に鳴く蟲の音、或は空行く月を見て過ぎし昔を忍び、はた又なきたちねの事ども思ひつゞくれば、いつしか心も空に憧れて、我にもあらず暫しは時のうつるもおぼえず、折柄さつと吹き來る風に、不圖我にかへれば早や夜もいたく更けたりとおぼしく、蟲の音はいよゝさえ增り、月は何時しか西の方にぞ傾きぬ。

▲選者曰　優しく書かれたり

▲思ひ遣り　群馬　伏島たき子

あゝ今宵は舊暦のお盆、亡き祖父君も母君も、久々にて此の佛壇へお出でなされたのか、お供へしたくさ／＼のもの皆めしあがつて下さいまし、さてもなつかしいやうな悲しいやうな、涙ばかり出てしかたがない、思へば幾多年月すぎたる己すらかうなのだもの、つひ先頃父君を失はれた友は、今どんなにお泣きなされてであらう、もう少し近からばお訪ねしていろ／＼お話もしやうものを。

▲選者曰　作者得意の文

新體詩

さびしら

東京　都築八重子

夫逝きてはや三日となりぬ、夕べの扉に寄れば、今沈みまさん太陽の大み神を拜ひまつりて、西へ西へと流れ行く雲の戀しくて

窓にしてみるも寂しや
消えゆかむ雲のゆくへの
紅衣あせてゆく如
大空をわしりゆく哉。

悲哀よ、わが寂寥よ
夕の扉のちさきむくろに
秘められぞ雲に導かれて
思ふまゝ宇宙を飛ばずや。

夫まさむ神のみ國は
夕映の雲のあなたよ
風傳えて明日の扉に
さゝやけな妾は微笑まんに。

▲秋の宵　埼玉　森田竹子

錦とまがふ萩の花
色香床しき桔梗の
交りて咲ける芒原
遠く千里に連りて
秋靜なる此の夕
昔通ひし學び舍の
門邊に暫時佇めば
夜の幕の四方に垂れ
庭の櫻の葉がくれに
煌めきいてぬ秋の月

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

五二出品

簞笥指物類出品

芳香馥郁且つ皮膚の健康と艶美を増す
黴病の素菌を撲滅し糸かせの患を除く
ホルマリン石鹸
東京本町　圖城商店

五二共進會東二階特許品部二間聯續
改良衛生飯櫃
熨火斗の中子
便利垢取
文明磨靴具
靴脫器
特許局
大國社出品場
本店電話新橋三九五三番

京橋金六町角
鳥場簞笥店
電話新橋〇五七一番
二階陳列場
簞笥

神佛師
神佛像彫刻
佛檀宮各種
佛具類一切
東京々橋區因幡町
赤澤老舖

祝
凱旋紀念
五二共進會
絹綿
ハンカチーフ
東京市日本橋區ふきや町
中西儀兵衛
電話浪花七百番

新形表附
貴婦人令孃 千代田草履
新形雨傘
出品場所 八中庭事務所ノ角ヲ右ニ折レ右側角目
淺草區茅町二丁目
香取屋本店
電話下谷千百九十二

襖紙商
川島商店
東京々橋區南傳馬町三丁目
電話本局(六六八)

五二共進會
美術染織物
東京人形町
上總屋呉服店
電話浪花六百

五二共進會御買物無賃配達を始めとして日韓兩國各鐵道全線荷物遞送方迅速丁寧取扱申候
五二會内配達部出張
東京西河岸
金原鐵
電話本局長二一七六、三一七〇、二四二四

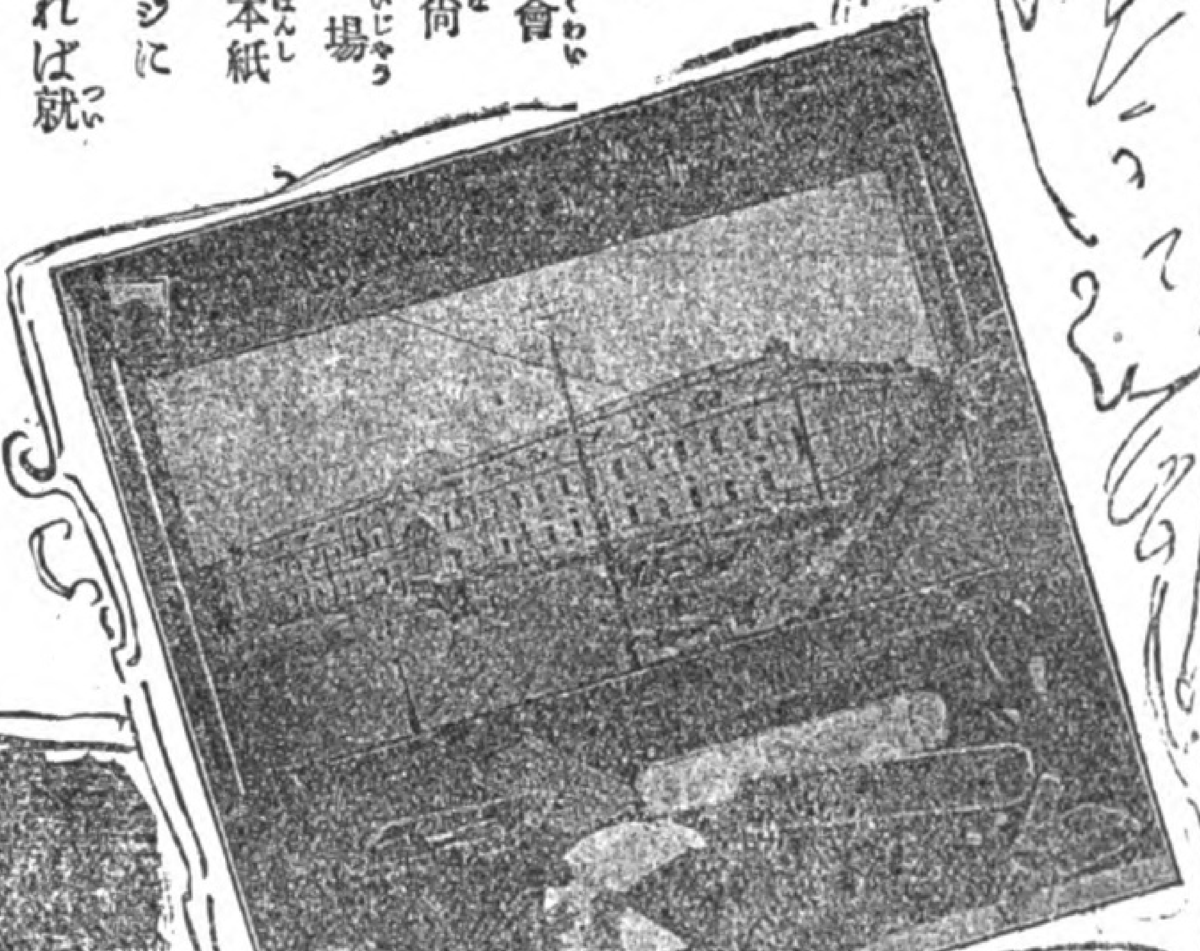
シヤ
製造
大和屋出張店
東京市京橋區銀座三丁目

貴金屬美術工藝品袋物
東京日本橋區新乘物町三
勝川屋 上田淺吉
電話浪花二三九四

當店の陳列は五二會正面入口階段を上り左側
本會場に限り卸直段を以て即賣仕候
當店は卸直段故他店より二割以上廉價なり

營業品目錄
百助元結
薰司香油
百助油
頭飾用造花
其他御婦人用頭裝品
化粧品廉價販賣仕候
◎尚御便利の爲五二共進會に出品致候間御引立御購求奉願上候
御婦人用美術頭裝品
化粧品販賣
東京市淺草區駒形町
商號中島屋
中居百助
電下三八八番

◎注意 下に掲ぐるは五二會場にして尚ほ五二會場の手引は本紙第十ページに詳記しあれば就て見らるべし



御婦人方の御便利を謀り階上當店出品物の傍へ手狭ながら化粧室を設け併せて御

金銀時計指環類

東京銀座二丁目
伊勢伊時計店
電話新橋二三三一
御一報次第商品案內進呈

正門を入り右へ東京織物出品場に特撰珍柄幷に新意匠物種々取揃へ陳列在罷候間御來會の節は御一覽の上御用命の程奉希上候
東京人形町通新乘物町
山本屋
中根呉服店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會

者

㊕

階下東京指物の部に其精粋を盡したる多大の製作品陳列致し置き候間御高覧の上何卒御購求の程偏に奉願上候

東京市京橋區水谷町五番地

武藏屋簞笥店

電話新橋二七六三番

樂器 出品

階上東京の部に斯道の逸品種々陳列仕り置き候間御一覧奉希上候

本店東京神田區かじ町十二

樂器商 **菊屋總本店**

電話本局二四四九番

紳士貴婦人用

携帯品各種

京橋尾張町新地停留場前

美術ダイミヨー商會

電新(一六一九)

目

季節模様 草花景鳥 **帯揚類** 附属數多

牛ゑり治

五二共進會場階下 即賣店 ゑり治

新橋竹川町十二 電話新二〇二七 本店 ゑり治

神田表神保町壹 電話本九五二 支店 ゑり治

新橋際博品館内階下 出店 ゑり治

金銀寶石美術装飾品

神田小川町壹 電話本局六八一

金石舎

諸敷物出品

正門を入りて右に突當る階段に對し堺段通並に日高織其外無數の新品陳列有之候間御來會の砌りは是非共御觀覧の榮を賜り度希望仕候

東京日本橋區新よし町河岸

敷物問屋 **日高屋商店**

電話浪花四七一番

請 眞 合

花生道具茶卓及鐵瓶類萬双物

其外家庭金物類一式

東京麹町區内山下町

五二館内 **眞杉商店**

弊店儀昔より袴專業にて各位の御引立を蒙り御厚禮奉申上候就ては絹木綿毛織等何袴にても益々御勉强仕猶今般新案登録金具附紐止袴販賣仕候此袴は男女の御貴君様に眞事に御便利に候間御袴着用の御諸君様御用向奉願上候

○御袴地○仕立袴

右品物總て廉價に販賣候

芝區日蔭町通り源助町拾三

住吉屋袴店

犬飼吉兵衛

電話新橋二千六十五番

ツ販賣類

(電話新橋一八七一)

休息にも供し度候間御随意に御便用被遊度候

東京京橋南傳馬町

大西白牡丹

(電話本局三十番)

男女用新案

兼用ズボン

エープロン

ヨダレカケ

卸商 梁瀬角治郎

●兼用ズボンは婦人用として最上の良品に有之候

めりんす友禪染最新柄の出品

門より右に入りて直ぐ右に見ゆる東京織物出品場にめりんす友禪染中群拔の絶品多數陳列致し置き候間御觀覧御用命偏に奉希上候

東京日本橋區人形町通り堺町

越前屋商店

雜報

五二會會場手引草

◎入場料　一人に付き金五錢（但し日曜日及び大祭日は其倍額即ち十錢）

◎軍人と學生は前記の半額なり、尚五歳以下は無料

◎下足料　一人壹錢（靴、雪駄は此限りにあらず）

◎臨時救護所　場內に入りて右側休憩所の後方に在り

◎事務室　臨時救護所の右方

◎會計室　事務室と隣りす

◎休憩所　場內の中庭にあり

◎臺灣喫茶店　場內中庭の築山に向つて左方にあり

◎工業權保護協會事務所　臺灣喫茶店の後方にあり

◎自働電話　場內の中庭にあり

◎煙草店は　場內に入りて右方白鶴酒店の隣りなり

◎藪蕎麥　中庭の築山に向つて右方に在り、其隣りに苔香園の盆栽店あり

◎西洋料理は　臺灣喫茶店と相對しビーヤホールをも兼ね

◎菓子店　鹽瀨本家の出張にて前記西洋料理の手前なり

◎五二共進會郵便局　會場正面入口の右方にあり

◎紀念繪葉書賣捌所　甲種繪葉書は會場內本館にて、乙種は前記郵便局の裏手にて、丙種は會場前の廣場左側にて賣捌き居れり

◎開場時間　午前八時より開場し午後五時閉場す

◎加島銀行の預金方法　加島銀行東京支店は今回本會の指定銀行となりたるが其營業方法にして他店になき特種のものを開くに定期貯金とて二ケ年三ケ年四ケ年と或る一定の期限間其預金を動かさゞるものにして假令ば百圓を得んとの目的にて貯金する時は二ケ年間每月三圓九十一錢を預けるの類にて傭人の獨立營業資本並に下婢又は娘の嫁資等を作る爲め多く貯金せるものあるよし左表は百圓に對する每月の掛金表なり

每月掛金割合表百圓ニ付

掛込年限	掛込金	元金總高
二ケ年	三、九一	九三、八四
三ケ年	二、五三	九一、〇八
四ケ年	一、八四	八八、五三
五ケ年	一、四三	八五、八〇

每半期掛金割合表百圓ニ付

掛込年限	掛込金	元金總高
二ケ年	二三、三一	九三、八八
三ケ年	一五、〇三	九〇、一三
四ケ年	一〇、九四	八七、五三
五ケ年	八、四八	八四、八〇

一時掛金割合表百圓ニ付

据置年限	一時掛金
二ケ年	八八、九九
三ケ年	八三、九六
四ケ年	七九、二〇
五ケ年	七四、七三

◎尚定期預金には預金證書に利札を附し之を切斷して預金せば重利法により利息を與ふる方法をも設けありと云ふ

◎長身器　牛込カーチレージ商會支店より發賣せる專賣特許長身器は男女を問わず之れを試用する時は健康體となるべく其試用法も至て輕便なれば室內運動器として完全のものと云ふ

廣告

新花王おしろい

最上醤油　キハク印

於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印

醤油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

釀造元　千葉縣野田町　茂木七郎右衞門　電信略號（キハク）又（ハク）

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衞　電話浪花五七七番

此の洗粉は米國最新最良特選原料を以て精製したるものなれば自ら皮膚を滑らかにし其色を白くす

●壹圓の舶來石鹼よりもクラブ洗粉は衞生美身術に適合す
●千種以上ある洗粉の中にもクラブ洗粉のみは石鹼に優れる特點あり

總代理店

●內外各地の信用ある小間物店化粧品店及吳服店にて販賣せられつゝ有之候間御便宜御用命相成度候

總輸出入雜貨化粧品問屋　中山太陽堂　本店支店

實地經驗　台所重寶記

村井弦齋著◎第十六版

正價金八十錢　郵稅（內地十錢　臺灣清韓卅錢）

發行◎東京市麴町區有樂町　報知社出版部◎發賣　東京市銀座大通新橋　新橋堂書店

增補註釋　食道樂

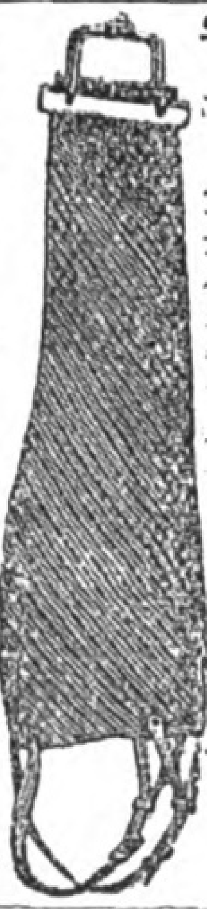
村井弦齋著◎第四十四版

春の卷　夏の卷　秋の卷　冬の卷　合本

正價一冊金二圓也　郵稅十五錢　臺灣清韓卅五錢

發行◎東京市麴町區有樂町　報知社出版部◎發賣　東京市銀座通新橋際　新橋堂書店

實用新案　ズボンシワノバシ具



本器は圖の如くズボンの裾を疊み縫目と縫目を抱き合せたる處を兩開きの板の中央の凹みたる處に置き板にて挿みたる後環にて兩方を締付け釣し置く時は自然ズボンの重にて膝の凸出及び皺を伸ばし頗る其格好を能くす（皺が餘り甚しき時は霧を少し皺の處へ御掛けください）挿板の裏面には羅紗を貼付しあるを以てズボンの地質を傷める等の憂なく構造頗る優美堅牢使用輕便大德用品なり御一報次第說明書及定價表を送呈す

頭髮肥料

最新輸入のヤボール毛生液

は獨逸ヤボール會社の製案にして其効驗の絶大なる香氣馥郁として最上の香水をも凌駕するは本品の特色なり

東京京橋區日吉町十八　直輸入商一手販賣　玉利商店　（電新三六五八番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大口鯛二氏選　月夜訪友

天

庭ひろき君かみたちやいかならんいさたつねまし月見かてらに　群馬　伏島たき子

▲評曰　此の御館は目黒にか目白にか諸共に訪ひみまほしうおほゆ

地

月澄て蟲なく庭をなつかしみ今宵も君か門をこそ訪へ　山形　阿部さゐ子

▲評曰　其の主の心ざまゝてなつかしうなん

人

さやかなる月かけふみて訪ひ來れは友かゝきなす琴の音そする　京都　渡邊豐子

▲評曰　友待つ程の手ずさび心にくきしらべにこそ

佳調

○月影のかたふくまても語らひぬをさなしみの友をたつれて　三重　小島駒子
○思はすも友の許をはおとつれぬあまりに清き月にうかれて　青森　佐藤楓子
○さやかなる月にうかれてうとかりし友の門にもめくり出にけり　群馬　木暮千代子
○獨りのみなかめむはをし此月夜友かり訪ひて歌かたりせむ　神戸　宇野類子
○浮かれ來て友のいほりに月見草露おくまても語り更かしぬ　岡山　寺松政子
○月かけのさやけき夜牛に浮かれ出ておとつれにけり友かいほりを　秋田　細矢はる子
○さやかなる月にうかれて思はすも友のいほりを音つれにけり　青森　田島愛子
○窓にさす月も澄むらん秋の夜にかたらふ友も隔てなければ　函館　神尾登女子
○月見つゝ更るもしらてたまあへる友と語らふ夜牛そたのしき　東京　土師利根子

甲

○影清き今宵の月をしるへにていさ山里の友を訪はまし　京都　難波直久子
○いさ行て友とかたらむ秋の夜の月にむかひて物思ふより　東京　瓜生保子
○十五夜の月見かてらに語らはんをさなしみの友をたつれて　大阪　佐野眞子
○おもしろき月の光に誘はれていつしか友の家に來にけり　函館　龍岡とし子
○蟲の音に心ひかれて月清き友の門へをおとつれにけり　埼玉　森田竹子
○秋の夜のさやけき月にあくかれて友の許をは訪つれにけり　三重　南部種子
○月に吹く笛をたよりにとめくれはゆかしき友の住ひなりけり　東京　上野芳子
○すみ渡るこの月かけにたつれはやま萩花さく友のそのふを　東京　白田はつ子
○へたてなき心のともをいさとはんひとり見るへき月のかけかは　愛知　服部千鶴子
○獨りしてめてんはをしき望の月友かりとひて歌語りせん　東京　三宅ひさ子
○白露のおくまて月にふかしけりむかしなしみの友をたつれて　東京　中隈富士子
○只一人なかめんよりはこの月に同しこゝろの友を訪はまし　山口　末田貞節子
○家にまつ人たになくは思ふとち月の入まて語らむものを　京都　花輪余志野
○黑雲の覆ひし月もはれにけり友を訪はんと途いそくまに　青森　岡部せい子
○靜かなる友の庵そしのはるゝ月見かてらに訪ひて語らむ　滋賀　平松いと子
○ちりの世の外なる友をたつれ來て月にひと夜をかたりあかしつ　山口　末田竹子
○澄みわたる月をめてつゝ友垣のもとに今宵は語りあかさん　長崎　葛原梅香

乙

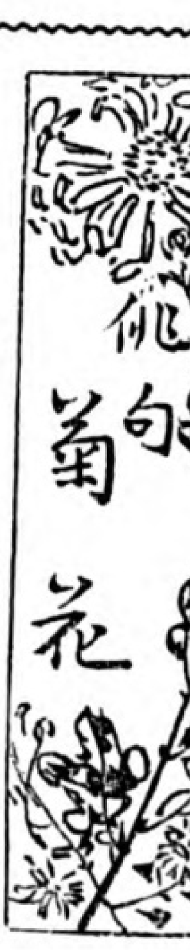
○さやかなる月見かてらに野邊近き友をたつれてふかす夜牛哉　京都　金澤收子
○月影の清き今宵を繪にせむか歌にせむかと友を訪ひけり　岡山　森島古野
○門の戸をたゝけはやかて迎へます友の笑顏を月そてらせる　大阪　富永才子
○さやかなる月の光に照らされて友をたつぬる道のうれしさ　三重　諸戸常子
○むつましき友を訪れて浮雲のかゝらぬ月に語るたのしさ　東京　戸塚てつ子
○隔てなき吾か友垣を訪つれて今夜の月をともにめてまし　東京　古莊まき子
○道まてといひつゝ月にあくかれていつしかつきぬ友の門へに　東京　四屋保子
○さしのほる月見かてらにたち出ておもはす來つる友の門かな　靜岡　青木絹子
○なつかしき友かりとひてくれ竹の葉こしの月を見るそ嬉しき　靜岡　竹内幸子
○月かけのいとも凉しきこよひしも我なつかしき友をたつれん　京都　渡邊時子
○友を訪ひて月見なからに語る夜はかへるもをしきこゝちこそすれ　熊本　高村つよ子
○獨りのみめてんはをしき月の影したしき友のもとを訪はゝや　東京　河邊和歌子
○山のはにかたむく月そうらみなる思ふ友とち語りあかぬに　京都　清水今子
○月かけの清き夕へにたちいてゝたつれつるかななつかしき友　京都　渡邊米子
○月影のくまなき夜牛に訪ひ來つゝ友と樂しく文を見るかな　青森　田島正子
○てる月にそゝろあるきもたのしきにわきてもうれし友を訪ふ身は　長野　植原千代子
○業も終へて隔てぬ友を訪れきてゝる月影にあそふ夜牛哉　京都　淺山順子
○野邊にすむ友かり訪ひて靜なる月にかたらむ月にうたはむ　兵庫　中村益子
○去年の秋今宵たつれし友のもとことしもとひて月をめてまし　岡山　貝原壽惠子
○てる月にうかれ〳〵てうとかりし友をたつれて語るうれしさ　靜岡　彦坂清子
○もち月の光さし入る窓の内に友とかたりて夜をふかしけり　東京　龜井爲登子
○野路の露分けへたてなき友とひておほえす月にかたり更しぬ　岡山　武田須磨子
○へたてなき心の友をたつれ來て月の入るまて長居しにけり　仙臺　阿部鈴子
○くまもなき心のおくをかたらんと月に友をはとひてけるかな　岡山　江田道子
○月かけをまつ間そつらきたちいてゝおなし心の友をたつれむ　京都　磯谷澪子
○月かけのかゝる松か枝なつかしみ友かりとひてかたりふかしぬ　東京　鈴木菊子
○てる月のかけをさやけみいさとはんちきりおきつる友のもとをは　愛知　木原貞子
○秋の月いさよふ空もおもしろし熊野のおくの友をたつれん　東京　五藤級子

丙

○月の夜に柴の戸あけて友とひぬひとりなかむることの惜しさに　東京　楠田りん子
○秋の夜に友をたつれてかへるさの道のしるへや望月のかけ　兵庫　下岡松枝
○いれたわむ小田の畦道踏分けて友をは訪はん望月の夜に　岡山　西村長子
○なつかしき友の枝折戸おとなへはさやかにいてぬ山のはの月　京都　松宮春子
○弓張の月もよし野の山奥にいさ入りて見む友をさそひて　茨城　福田喜代子
○束の間も忘れかねたる思ふとち訪て隈なき月をなかめむ　靜岡　里見雄子
○すみのほる月の光にさそはれて友のいほりをおとつれにけり　青森　鈴木安子
○松蟲の聲なつかしみ友のもと月影ふみておとつれにけり　長野　高橋きよ子
○なつかしき友をたつれてかたり合ふ月のよはこそたのしかりけれ　青森　上田うた子
○たのしさを何にたとへんむつましき友をたつれて月を見る夜は　山口　荒瀬千勢子
○すみ渡る月の夜頃になつかしき友を訪ふこそうれしかりけれ　京都　若山たき江
○月清み蟲の音いよよさやかなりいさ友訪ひて共にきかまし　青森　留目うた子
○月きよみ君かみもとを訪なへはおなし心の友も居ませり　東京　長鹽錠子
○友の宿とへは樂しくまとゐして歸さ忘れぬ月の清さに　靜岡　萩原さだ子
○はからすも一人の友をたつれ來て二人にあひぬ月すめる夜に　東京　小島幹子
○ひさかたの月にさそはれたちいてゝ友かいほりをとひにけりかな　岡山　横川朋子
○語らんと訪ひこし友は影もなし柴のとほそを月にまかせて　愛知　市橋鵜子
○ほと〳〵と叩けといらへなき門の友も月にやうかれいてけん　東京　秋元小菊
○月見んと友のいほりをおとつれてかたふくまても語る夜牛哉　青森　鈴木萩子
○さやかなる月をなかめつ音も清く小琴彈つる友を訪はゝや　青森　吉田安子
○小萩わけて月下に叩く友の門蟲のなく音に心おきつゝ　東京　山口理勢子
○月もよし夜もよし今宵吐月峯の友おとつれて語りあかさむ　靜岡　清水初子
○こよひしもたのしく道をたとりつゝ友をやとはむなつの夜の月　京都　河田豐枝
○いさ月に近き小島の友とはむ黄金のかゝり白銀の海　東京　中山正子

丁

○なかむれは君なつかしき心地して月に訪ひけり友に見えんと　神戸　乾榮子
○わくらはに訪ひ來しものを月の門たゝかはむしの聲や止みなん　北海道　四久子
○隣村へ一里の途に月いてゝ友のやしきの壁白う見ゆ　京都　松宮菊枝
○蟲の音に露こほれ散る月の夜を友かり訪いてうた語りする　兵庫　高井菊江
○友人の袖の名殘やとゝむらむ月も今はの別れじの空　靜岡　大高ふみ子
○歌の名を呼はるゝ庵をおとつるゝ月すみ渡る望月の夜牛　東京　赤澤英子
○學ふ身の思ひかさぬる月の夜に友訪ふ空のふけ渡るらん　三重　莊司種子
○打連れてかたる花野に月さへて野守か宿にふかしてしかな　宮城　金たま子



秋句　菊花

天　菊作る古稀の翁や髭白し　東京　赤澤英子

地　菊色々白にまとまる月夜哉　岡山　江田道子

人　白菊の花に見へけり千代の色　愛知　仲けん子

○月見んとちきりおきたる友のもとさけたつさへてとふそ嬉しき　愛知　仲けん子
○よみさしの書は机に置かれけり月にうかれて君も出てけん　埼玉　水野淑子

菊の花咲きてせはしき主かな
賜はりし殊勳の宴や菊の花
菊の香や二十あまりの未亡人
晴るゝ稻夜の氣遣はし菊の花
世を捨てゝ菊に知らるゝ隱者哉
宴はてゝ使臣に賜ふ菊花かな
菊に氣をとられて月に歸りけり
朝風に薫の高しきくのはな
御乘馬や右も左りも菊の花
菊の日や賜り杯は桐の紋
白菊やちりも止めぬ祖母が庵
昨日見て今日見直すや菊の花
菊の露うけて老女のけはひ哉
千代ふてふ齡ひも高し翁菊
早咲のつほみ嬉しや鉢の菊
枯れ果し腐野のなかや菊の花
ほめながら橡で馳走や菊の花
懷ろに蟲の音を閑く野菊かな
菊花そのをにかほろわたほうし
花寶りの翁香ろや菊のころ
朝親に世を讃られて菊のはな
長くも御紋となるや菊の花
白赤と色とりませて菊の花
古塚や像原なげく菊のはな
九重の上に句ふや菊の花
賤が屋におれはと許り菊の花
老せすと菊の盃いさくまん
黃に白に香は千代や菊の花
菊花咲く賤か離や風かほる
菊咲くや友返す惜し暮夜長し
露拂ふ風にかほるや菊の花
翁もる園やめでたし菊の花

兵庫 乾榮子　愛知 市橋幾子　岡山 赤木擧奐子　熊本 齋藤さき子　岡山 仲田磯子　三重 山内せい子　三重 南部種子　京都 八田艶子　兵庫 下岡松枝子　三重 莊司種子　埼玉 森田竹子　青森 田島正子　東京 四川縫子　東京 戸塚鐵子　群馬 伏島たき子　山形 阿部さゐ子　東京 彦坂たき子　東京 大澤幸子　東京 三宅久子　靜岡 萩原さだ子　東京 山口理勢子　三重 小島駒子　京都 河田豐枝子　青森 吉田やす子　宮城 金たま子　京都 渡邊豐子　兵庫 宇野類子　京都 磯谷澪子　東京 楠田りん子　東京 伊矢野孝子　長野 植原千代子　京都 渡邊米子

第卅六回作歌集
題　雁
選者　大口鯛二氏
規定　一人一首繪葉書に認める事
優等の作歌は十月二十日發行本紙上にて披露すべし

第廿九回短文集
題　雜題
選者　編輯局同人
規定　百八十字以下用紙葉書
優等の作は十月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第十七回俳句集
題　砧
選者　編輯局同人
規定　一人一句繪葉書に認める事
優等の句は十月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第十回新體詩集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの用紙葉書
優等の作は十月二十日發行の本紙上にて披露すべし

締切十月五日限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本優等清酒
御進物用は美麗箱入
壜詰　最上清酒
世界長

世界長は內務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり
世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飲用するの便宜あり尚殺菌しあれば夏季腐敗の憂ひ毫もなし
壜詰　一升入　四合入　貳合入　一合入の四種
發賣元　高橋商店
東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り）
電話浪花一五六一番

開業廣告
私儀多年獨逸國留學中ノ處今般歸朝眼科專門開業仕候
神田區連雀町十八番地郵便局前
ドクトル　宇良田唯子

樂しき家庭を作るに必要なる蓄音器
目錄御一報次第進呈

大日本蓄音器平圓盤及蓄音器販賣
今春來吹込たる
平圓盤新曲譜着荷
發音尤良好聲音樂器と平調價格低廉
本店　東京市京橋區銀座一丁目（長電話新橋九七九番）
支店　東京市淺草區並木町廿五番地（長電話下谷九八八番）
大阪市南區順慶町四丁目（長電話東二四一四番）
福岡市博多下西町廿三番地（電話五〇一番）
北海道小樽區色內町（電話三二三番）
東洋一手販賣
三光堂

營業品概要
○各種時計類附屬品
○双眼鏡及アルズム鏡
○測量用諸器械
○製圖器及繪具
○氣象觀測器械
○貴金屬美術品
東京銀座四丁目
服部時計店
電話新橋長七一四、一三〇

冬物澤山取揃へ申候間御用命奉希上候
半ゑりか神田赤のまん限
本店　神田表神保町一番地　電話本局二八五三番
出店　新橋博品館階上

音樂生徒募集（東京音樂學校受驗準備）
女子音學學校
神田錦町三丁目十一

◎新刊紹介

▲女性の疑問　市川源三　三輪田元道　等著
本年八月　元々堂發行　定價卅五錢
本書は凡ての女性は諸種の中にて尤も多くの疑問を有するものである然るに其質問を發せざるは其勇なきが故なり著者等滿天下の女性に代つて其問題を解決せんが爲に自問自答以て其疑問に答へたり

▲東京遊行記　大町桂月著
本年八月　大倉書店發行　定價壹圓
桂月君の著書とて普通の案內書と異なりて輕妙知らず〳〵の內に卷を終る初めに東京全圖と附近全圖とを掲げて江戶城の沿革より始めて附近の名勝を探りたる紀行文なり足跡鎌倉より成田熊谷に及ぶ或は風景を敍し或は人情を語り或は歷史傳說を述べ趣味頗る多し

▲時代文學史　高橋立吉著
本年八月　開發社發行　定價四十錢
明治時代の文學は國文學史上に於て前代の其れと比して遜色なきものなりと明治初年より今日に至る文學の歷史にして小說詩文俳句少年文學等各項目を別ちて詳說したれば現時代文學の變遷一目瞭然尤も便利の好冊子なり

▲讀書便覽　山方香峯編
本年八月　實業の日本社發行　定價三十錢
讀書上の用意と書籍の選擇とに便せん爲に輯錄したるものにして初學者は古今多數書籍中より如何なる圖書が宜しきや其鑑別に苦まんとを慮りて著者の善本と考ふるものを擧げたるなり然し重に文學に關する書のみ尙ほ一層廣く各科に於ける便覽の編著こそ望ましけれとは云へ其保存法其要約其閱覽等用意頗る至れり

▲教育と音樂　酒井勝軍著
本年八月　警醒社發行　定價三十五錢
著者は音樂家又教育家として共に獨特の技量を有す本書は氏の才能識見を表示せるものにて體育、智育德育及び音樂と教育との關係聯絡に就きて詳說し以て音樂趣味の普及を計らんとせり

▲音樂と其趣味　山崎恒吉著
本年八月　著者刊行　定價なし
我國の教養ある人士に於て音樂趣味の多く解せられざる其今日にありて本書の如き著も必要と云ふべし本書は音樂に就ての雜纂なり或は先哲の言あり或は樂器の構造及び其歷史起原等を詳說せり

▲日本家庭辭書　四山悠治編
本年八月　弘道館　定價一圓三十錢
井上文學博士の序に曰く姓是西山名悠治筆端描出大文字瞬來一本匿窓前照觀家庭小天地と蓋し適評ならん

▲海　江見水蔭著
本年八月　隆文館發行　定價六十五錢
著者得意の海洋を寫せるもの筆端悉く生氣に滿ち文を愛する人士の好伴侶なり載する所は短編八、雜錄三、紀行二

▲草花栽培全書　富益良一　田中萬逸　共著
本年八月　隆文館　定價六十五錢
本書は和洋各種の草花二百餘種の性質及び其栽培法を言文一致體の文章にて平易に且親切に說明しあれば斯道に趣味を持てる人に取りては尤も有益なる指南車なり特に讀者の便宜を圖り草花說明の排列順序をいろは別にしあり

▲草花栽培法　片山熊太郎著
本年八月　育成會發行　定價六十錢
本書は極めて通俗なる草花の栽培法を詳說せるものにて只學校園若くは家庭の後園に栽植する和洋四季の草花類中尤も普通なるもの百有餘種を擧げたり元より園藝なるものは世の進步と共に平行するものにして開化するに從つて人は園藝の趣味を深くする故に斯の如き著書の益々多くして以てこれが普及を圖りに各家の前庭後園に此等の草花を培養し以て家庭を樂しましめんと希望す

▲女子東京入學案內　太田龍東　中田春峯　著
本年八月　二書房發兌　定價四十錢
本書は市內に於ける女學校の規則と校風を說明し東京遊學の危險を指摘し女學生の墮落の經路を說き終りに入學試驗問題集を添へたれば東京遊學の志ある地方女學生は必讀を要するものなり

第二回新學期開始

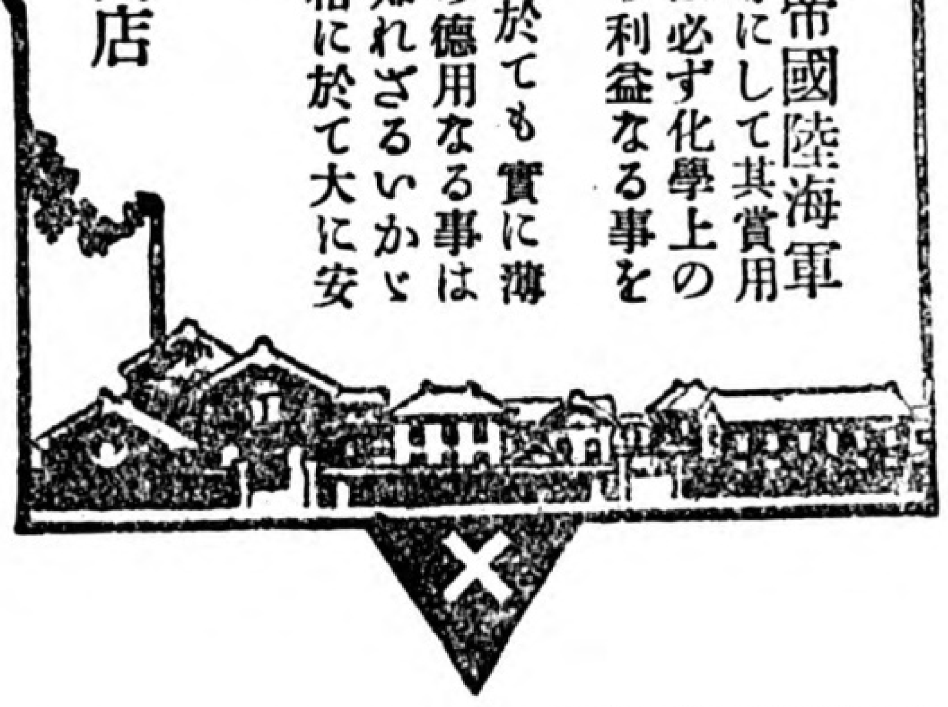
◉會員大募集
九月三十日迄の申込に限り入會金全免す、目下入會の好機

▲事情があつて高等女學校に入る事が出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ヶ年間に高等女學校程度の教育を完全に正則に授けます
▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません。本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いやうにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を每號附錄とします
▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ教育に充分經驗のある方のみです講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です
▲本會講義錄は右に述べし通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都會一ヶ月の遊學費で優に全期を終る事ができます。

大日本淑女學會
高等女學校程度の講義錄發行

批評一斑
▲中央新聞評　講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
▲每日新聞評　米國の通信教授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり
▲二六新聞評　高等女學校の全科程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
▲日々新聞評　講義は總べて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
▲都新聞評　講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し
▲報知新聞評　講義錄多しと雖も實益と趣味と併て有する事斯くの如きは稀也
上掲の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲規則書▼　端書にて申込あれば直に郵送す可し
東京神田南甲賀町　大日本淑女學會（電話本局三千四番）

花王石鹼を最も多額に使用せらるゝは帝國陸海軍帝國醫科大學其他各病院又は大會社等にして其賞用せらるゝ理由は多額の買入をせらるゝには必ず化學上の試驗を爲し品質の善良衛生に有効經濟上の利益なる事を認められ全く實用に適する所以なり
花王石鹼は當製造元は勿論各取次店に於ても實に薄利を以て販賣せらるゝが故に需用者諸君の德用なる事は明かにして又舶來或は和製に拘らず名も知れざるいかゞわしき石鹼を求めらるゝよりは品質及價格に於て大に安心なれば倍々御愛顧あらんとを希ふ
花王石鹼本舖　東京馬喰町　長瀨富郎商店（電話浪花三番）


小兒病診療
東京大學にて專攻の上多年獨逸國に於て研究の處今般歸朝診療に從事す
診察午前　日本橋濱町明治座裏通　入院隨意
院長ドクトルメヂチーネ　澤木伊重
澤木小兒科院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

如斯雜誌を見ざる婦人ありや

婦人世界

九月三日發行 一巻第九號 定價一冊十五錢郵税一錢五厘 六冊郵税共九十錢

◎口繪には名家の新婚寫眞(河原操子外三組)始め皆美麗

東郷大將の母堂

絶代の偉人は如何にして育てられしか

▲母堂は如何なる心掛の婦人なりしか
▲母堂は如何なる覺悟の婦人なりしか
▲母堂は如何なる婦徳の婦人なりしか
▲母堂は如何なる慈愛の婦人なりしか
▲母堂は如何なる健康の婦人なりしか

天下一品 賢母の鑑

本誌獨特 良妻の師

◎消渇は如何に豫防すべきか(醫學士伊庭秀榮)

◎初秋の育兒上の注意 四大注意(加藤ドクトル)

婦人の日常生活法 村井弦齋

▲衣服は如何に着換ふべき
▲婦人は何を嗜むべきか
▲晩食は如何に用意すべき
▲食物の分量は如何すべき
▲食物の性質は何が宜きか
▲食事の作法は如何すべき
▲食物は如何に消化さるか
▲水は如何に飲むべきか
▲菓子は如何に食すべきか
▲食後の含嗽は如何すべき

東京京橋南紺屋町十二 實業之日本社 賣捌 全國書店

消化新藥

醫學博士 井上善次郎氏の實驗報告に曰く 胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の内、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峰博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士 栗本東明氏の實驗報告抄錄 高峰博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の效力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すると共に此種の患者に毎に之れが服用を勸告する者なり 錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峯氏タカヂアスターゼと乞御指定。

實驗報告集は無代進呈

新公論

第二十一年第九號目次

家族制度は戰勝の原因に非ず 板垣退助
煩悶と自殺及び厭世 澤柳政太郎
故國青年の渡米熱を排す 井上啓次郎
萬國語の歴史と現在 丘淺次郎
島田三郎と伊庭想太郎 暮村隱士
女子の職業と姙娠休職の制 宮川鐵次郎

一國字と萬國字 南條文雄
救濟の必要なし 柳澤保惠
同情する勿れ 丸山通一
國字改良の副産物 本田増次郎
日米初對面記 ベルリ
南村閑話 島田蕃根
新日本村雜記 篠原熊峯
田舎しるこ 青柳有美

湘南避暑の記 龍北
自殺百種 零翁
歐米名流談 妖星
文藝時觀 林田春潮
短歌 渡邊光風
新體詩 兒玉花外
俳句 大谷繞石
最新思潮 三十餘篇

定價一冊金拾五錢 六冊金八拾五錢 拾二冊金壹圓六拾錢 但し郵便税を要せす
廣告料一行金三拾錢一ペーシ金拾五圓

發行所 東京市本郷區東片町百十一番地 新公論社

御祝へ御園白粉

畏き邊りの御料に召させ給ふ

御料御園白粉

完全無鉛 高貴御化粧料 みそのおしろい

◎ねり製 御園の雪
◎水製 御園の月
◎粉製 御園の花
◎クリーム 御園のつぼみ
◎化粧水 御園の露
◎打白粉 御園なでしこ
◎濃厚化粧水 四季の花

製造元 東京芝 胡蝶園

發賣元 東京市日本橋區檜町四丁目 特電浪花四四八番 丸見屋

帝都唯一受賞袴 小町學生袴

日本橋區彌生町 印卸部 永井本店 (電話浪花一八四一番)

神田區南神保町 小賣部 永井支店

HAIR—ROLLS U .S. PATENT.

◎米國最新流行の束髪前髪じん◎

ヘヤロール

▲流行の「エス巻」結に最も必要
▲輕き事「ハネ」の如く伸縮自在
▲髪を出すには、なかほどを糸にてくゝり長くせば格好宜し
▲頭部を冷してフケを除去す

◎ヘヤタイは貴婦人用の束髪元結にして切る事又は結ぶ手間を省き一本あれば半年の壽命を保つ徳用便利の品

賣捌所 各地和洋小間物店

日本一手販賣元 東京市京橋區鎗屋町一番地 日加商廛

◎無鉛高等化粧料

ピンク白粉

芳香は世界無類一度御試用あれ販賣は全國到る處に有

佛國パリー直輸入 倉田商店

(ラクダ印)

ラクダ印麝香石鹸

(麝香石鹸)

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべきミレーの香料を多量に含むが故に壹度使用せば其香氣身体は元より手拭、タオル、ハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間は微部としてかほりを失はざる効力は舶來品にも未だ見ざる特點を有す◎一大

(定價大形廿錢 小形拾錢)(熱心勉強なる和洋小間物賣藥化粧品店にて必ず販賣せり)

近來類似品有「ラクダ印」と井上に御注意

東京本石町三丁目十八番地 芳香雜貨問屋 井上太兵衛

北米合衆國紐育市

シンガー裁縫機械會社

東京支店 東京銀座三丁目拾貳番地
大阪支店 大阪心齋橋筋二丁目五拾六番地
長崎支店 長崎大工町六番地
東京支店名古屋監督店 名古屋玉屋町九十六番

「シンガーミシンは世界中一番高價なミシンですが輕くて使ひ易くて、奇麗で、機の構造の完全して居ることも亦世界一です、僅が五圓、拾圓許りの差ですから、同じく買ふのなら始めからシンガーミシンを御買いなさい、經驗上御すゝめ致します」……とはミシンに委しき夫人方の實驗談!

斯くの如く洋服店、裁縫店、足袋商、シャツ商、靴商に大好評を得たるシンガーは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり、而してシンガーミシン專門の裁縫學校も漸次增加し、東京のシンガー裁縫女學院の新築工事は本年七月中に既に落成しました……(定價表目錄等御申込次第進呈す)

ミシン裁縫專門教授 (規則書進呈、郵券封入御申込アレ)

東京麹町區有樂町壹丁目五番地 シンガーミシン裁縫女學校

大阪東區北濱二丁目六番地 シンガーミシン裁縫女學校

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

加島銀行ノ由來

一加島銀行ハ元加島屋ト稱シテ舊幕時代ニハ諸侯方ノ爲替方ヲ取扱ヒタル舊家ニシテ維新後銀行ノ組織トシ廣岡家一族ノモノ社員トシテ無限責任ニテ業務ヲ確實ニ勵務仕候ニヨリ江湖ノ御信用厚ク今日ノ繁榮ヲ致シ居リ候モノニ有之候

右ノ次第ニ有之候得バ諸侯方ノ御取引多ク又日本赤十字社トノ御取引ヲモ仕リ今回ハ又タ愛國婦人會ヨリモ御取引ノ御下命ニ接シ申候斯クノ如ク益々御信用ヲ高メ現ニ當行ノ總預金高ハ壹千萬圓ニ達シ申候間御安心御取引願上候

加島銀行營業科目

○定期預金

三ケ月以上一ケ年間ノ期間ヲ定メテ御預リ申上候外ノ預ケ金ヨリ利息多ク永ク貯ヘ利倍増加ヲナサントスル御方ニハ最モ御都合宜敷キ御預ケ金ニ有之候殊ニ當社ニテハ公債證書ノ如キ利札付證書ヲ發行仕候

○公益預金

公私ノ團體ノ預金ニ對シテハ當行ハ特ニ御相談ニ應シ高歩ニテ御預リ申候

○當座預金

日々金錢ノ出シ入レ多キ御方ハ此預金ヲナサレ候得バ利息ヲ附シ他ヨリ御受取ノ小切手手形等ニテモ御預リ申上御引出ノ爲ニハ小切手ヲ差上置キ候得バ其ヲ御振出ニ相成候ヿナレバ如何程遠方ノ御方トモ御取引御便利ナル者ニ有之候

○小口當座預金

通帳ニテ出シ入レナサル、利息ヨキ御預リ金ニ有之候

○貯蓄預金

金壹錢以上ハ何程ニテモ御預リ申上候テ御引出シ御自由ナリ御婦人方ヤ御兒達ガ少シク氣ヲ付ケテ御預ケニナレバ意外ノ大金ニナルモノニ有之候

此御預リ金ニハ定期貯金ト云フモノ有之御兒達ノ御祝、御婚儀又ハ家屋ノ御普請ナゾノ爲ニ御掛金ヲナシ滿期ニ一時ニ大金ヲ受取ラル、方法ニ有之候詳シクハ御問合御利用被下度候

○手形割引、貸附金、送金、代金取立、諸會社金錢取扱等銀行一般ノ業務取扱申候

○公債諸有價證券ノ賣買御依頼ノ方ニハ當行ハ御便宜ヲ計リ特ニ無手數料ニ取扱可申候

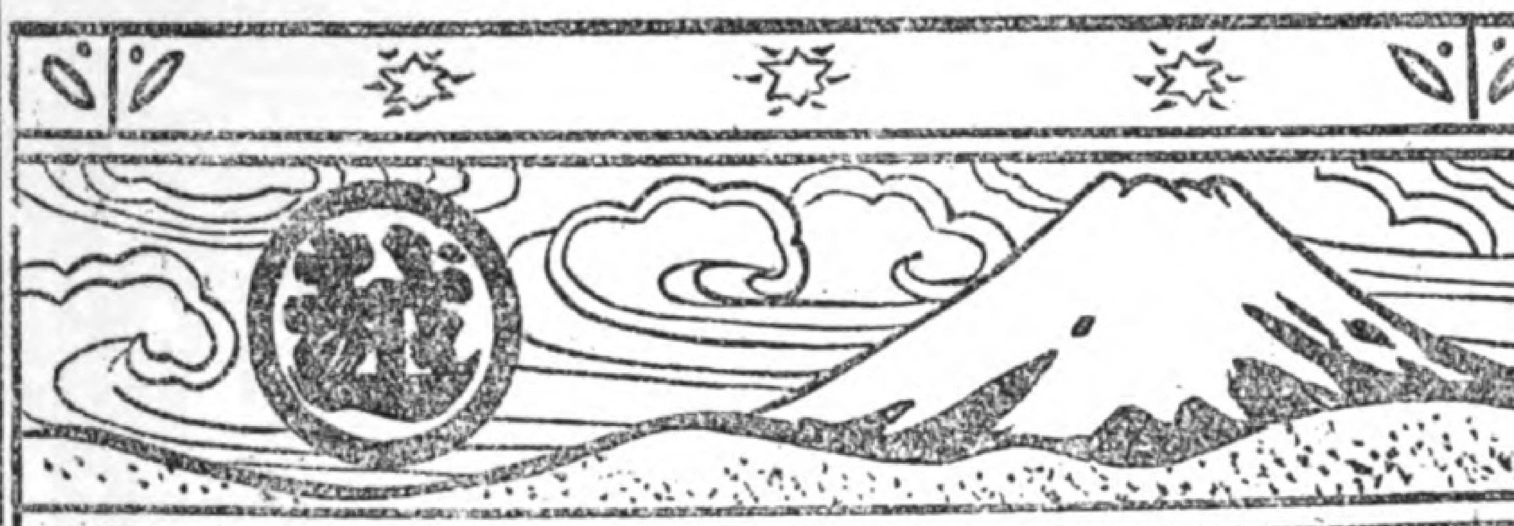
○勸業債券、貯蓄債券、興業債券、割增金、利札等ノ御仕拂便利ニ御座候

大阪市西區土佐堀通壹丁目　合資會社 加島銀行本店

日本勸業銀行
日本農業銀行 代理店

東京市日本橋區青物町十五番地　合資會社 加島銀行東京支店

東京市四谷區麹町十三丁目十五番地　合資會社 加島銀行 四谷 出張所



洋織物 裁縫物
毛布 敷物類
何なりとあり有まいと
御思召品も御尋下さい

▲婦人の慰問使
定價金拾二錢
愛國婦人會本部內
愛國婦人發行所

○色白く艶をだす最良の化粧石鹸（大形廿錢 小形拾錢）

松澤ホーサン石鹸

○到る所に販賣す類似品あり松澤名義に注意

東京本石町四丁目
芳香藥種問屋
ムスク香水本舗
松澤常吉

米國聖路易萬國博覽會銀牌銅牌受領　第五回勸業博覽會一等二等三等賞牌褒狀　同文館製造保險附

改良風琴

金拾八圓　參拾八圓　金五拾圓　金七拾圓　金九拾圓　百三拾圓　金二百圓
貳拾八圓　四拾五圓　金六拾圓　金八拾圓　金壹百圓　百五拾圓　三百圓迄

練習用風琴

貳拾五圓　四拾五圓　三拾五圓

教授用風琴

金拾六圓以上　金貳百圓迄　各種

樂器校具製造
販賣 東京神田區千代田町 振貯口座第一八〇番
同文館樂器校具店

樂隊樂器

諸用
壹組金拾五圓以上
金四百圓迄各種
流行西洋樂器類
西洋樂器調律及脩繕
音樂唱歌書類出版
國語讀本

標本

授用標本
動物植物鑛物岩石標本
人體模型獸類標本
花實野菜標本
軍艦模型類
物產標本
石膏製作品
體操運動用具

器械

器械器具
身體檢查諸器械
物理化學器械及藥品
國定算術十進計數器

季節向き新柄物漏れなく取揃へ店内一面に陳列致し置候間御來觀被成下候樣奉希上候地方よりの御註文は御書面にて御申付被下度く即日小包郵便を以て御届け可申上候尚ほ註文御案内書は御一報次第呈上可仕候

三越呉服店

東京日本橋區駿河町

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局 三、三〇〇番 四一番 三七番（特）一〇二番
一定期預金 年五分
一當座預金 日歩七厘
一特別當座預金 日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目
合名會社森村銀行
電話（特）本局六七三番
定期預金 六ヶ月以上 年五分五厘
當座預金 百圓に付日歩 八厘
特別當座預金 同日歩 壹錢壹厘

資本金千八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社十五銀行
電話新橋 三〇番 一五三〇番 三一九三番
同日本橋區新乘物町
同 日本橋支店
電話浪花 一九〇一番 三二七四番 三五〇八番
一定期預金 六ヶ月以上年五分
一當座預金 日歩七厘以下
一特別當座預金 同 壹錢

天下一品
最上醬油
千葉縣野田町
釀造元 茂木佐平治
賣捌所は各地とも有名なる酒醬油店に有之候

スコット乳菓
小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著明ナレヲ證スルモノナリ
説明書ハ横濱郵便局私書函第五十八号
スコット乳菓部ヘ御申込アレハ無代價ニテ進呈ス
代理店横濱市山下町廿八番館
米國貿易商會

袴乃親玉

東京日本橋區長谷川町
卸部 美濃磯本店
電話浪花二八九五番
小賣部
本郷區本郷五丁目 美濃磯本郷支店
淺草區諏訪町 美濃磯淺草支店
電話下谷一四一五番
日本橋區佐内町 美濃磯佐内町支店
神田區小川町 美濃磯神田支店
深川高ばし際 美濃磯支店
芝區新櫻田町 小田商店
牛込區神樂町一丁目 伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目 伊澤支店

美人ムスク石鹸

此坐形ナキ物ハ模擬ナリ
美人ムスク白粉
輸入元 東京市日本橋區新和泉町 桑原花生堂

正札附陳列場
西洋小間物
帽子各種
婦人用小間物
中久商店
束髮用具
内外化粧品
玩具文具
東京神田小川町通り
裏神保町一番地
冬物各種着荷仕候

醫院案内

婦人科產科榊病院
院長 醫學博士 榊順次郎
副院長 醫學士 久保徳太郎
每日午前診察 每日夕刻診察
東京麴町三番町（電話番町三九五）

内科小兒科 特に呼吸器病
麴町はやぶさ町二十八番地
ドクトル 川瀨元九郎
電話番町八二二番

小兒病診療
淺草區福井町貳番地
宅診午前 往診午後
醫學士 内田愼太郎
電話下谷七一八番

院長 醫學士 鳥山南壽次郎
鳥山内科院
午前診察 午後往診
京橋區鎗屋町十一番地
電話新橋千七百四十六番

内科一般
東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
板垣亭
電話本局貳千九百七十番

神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）
内科病特に腦脊髓神經疾患
院長 ドクトル メヂチーネ 峰秀世
峰内科醫院

病原的最新治療（根治療法）
東京日本橋區元大工町十五番地
（元中安跡）
東京内科婦人科醫院
（入院随意）
院長 ドクトル 松井滋雄
電話本局三千二百九十九番
血液清新の療法を主とし喘息、バセトー病糖尿病の如き難症も日を期して全治せしむ

第廿五回 十一月一日ヨリ醫士ノ爲ニ開ク
產科婦人科學講習
東京日本橋區濱町參丁目七番地
楠田病院教室

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱
京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星堂
京橋區南鍋町 秀逸社
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜舍
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用ワッセル

●此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹼曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
●用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脫ますシヤツの如きは(拾貳號)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價 拾貳號入 金拾五錢 六號入 金八錢 袋入二錢

芳香御肌洗粉ワッセル

●此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢 普通 五拾錢 六錢 參拾錢 三錢 拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワッセル日本一手販賣元
御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元
三友商會

ハンカチーフ 絹綿麻各種箱入
●シャツ及び沓下
●婦人小兒用帽子
●キャンバース及び
●アイスウール各色
●新着英國製 更紗各種
●精巧舶來人形各種
●洋花リボンレース
●旅行用化粧道具
●外西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與 三枝小賣店
電話新橋三九二七番

煉香油 パール
貴婦人用 紳士用
パールハ學術的最良ノ煉香油ニシテ四季ニ適シ毛髮ヒゲヲ保護養生シ凡テノ悪臭ヲ去リ愛スベキ香氣ヲ有スル世界有數ノ逸品ナリ
發賣元 東京八丁堀 本尾分店

日本家庭辭書

家庭末代の寶典(内容見本御入用の方は御一報次第進呈す)

文學博士 井上哲次郎先生
文學博士 元良勇次郎先生
文學博士 井上圓了先生
學習院女學部長 下田歌子先生
序 西山悊治編

四六判形洋裝頗る美本 總クロース製度の寫版 押型全一冊 舶來上等紙摺紙數七百七十餘頁▲正價金壹圓廿錢內地郵稅金拾五錢 口繪中村不折畫伯の三色版 家庭團欒 アート挿入

●九月三十日限り特價九十錢 大好評嘖々初版賣切れんとす
大廉賣期限僅に十日▲好季を逸する勿れ

發兌 東京京橋南大工町 弘道館 電話本局二八四〇番
東京神田 東京堂
大阪 積文社

東京買物用達會社
東京市神田區三代町 (電話本局八九四)

▲當會社は地方に在て東京の物品を購入する人の便利を計る爲めに設立せし者也
▲當會社は東京に於て賣買する物品は如何なる物品にても買入に盡力す
▲當會社へ買入申込者は品名分量形狀品質色合使用向代金屆先を詳記するを要す
▲當會社は無限責任にして確實公平に廉價購買に勉め迅速に送達を爲す

▲當會社は運送費荷造費の實價の外手數料として買入代價の百分の二を申し受く
▲當會社は買入代金十圓以上の物品は代金引換小包他は前金申受となす
▲當會社へ電話注文の向は直に買入三時間內に東京市內は配達するの便法を設く
▲當會社は東京市內に限り電話又は葉書にて申込次第店員差出す事あり

從來當發行所へ物品購入方御依頼の向は爾後右會社に向つて御申込み相成度候也

愛國婦人發行所

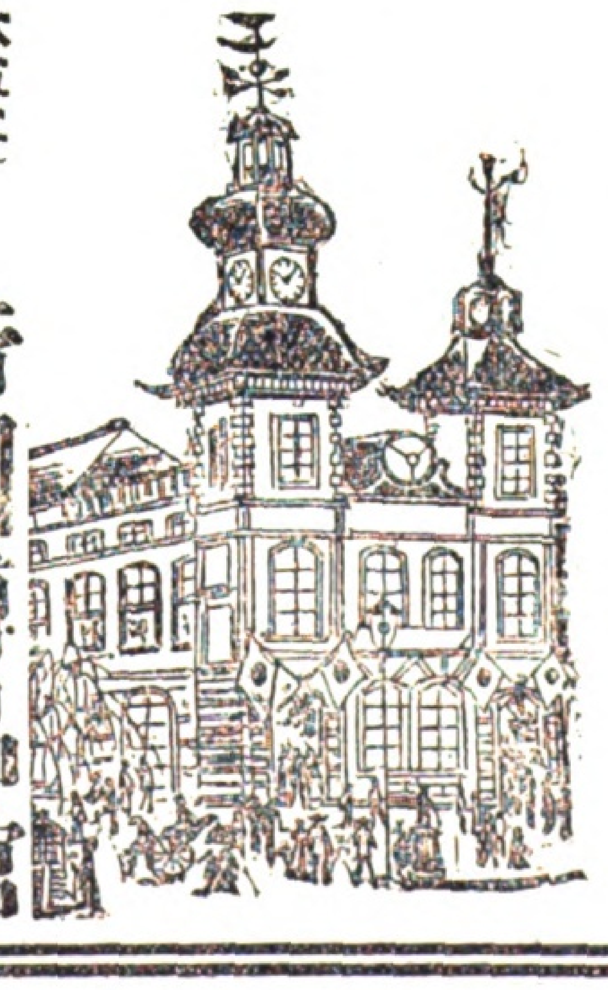
各女學校御用
附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛
電話(長)浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

日本第一の大勸業場
(本場の特色)
◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市內無賃で配達致します
◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角
電話新橋(一六五二 二三六一)



帝國博品館

金銀盃類

秋の月にも春の花にも盃ならして何んの樂しみかあらん殊に戰後功を論し賞を行はるゝにあたり祝盃として用ゐらるゝには又ふさはしき意匠の盃なかるべからずまた賞品として御授與せらるゝ盃は弊堂のものに限るへし

宮內省御用達
東京市下谷池の端仲町
玉寶堂
電話下谷(特九六五番 一二四四番)

明治三十九年九月廿日發行(毎月五日二十日二回)
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄
發行所 東京麴町 愛國婦人發行所
印刷所 秀英舍工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十九年九月廿日發行（毎月二回十日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

愛國婦人會群馬支部職員

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會內愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN